

CZ-431-H38



1200502086533

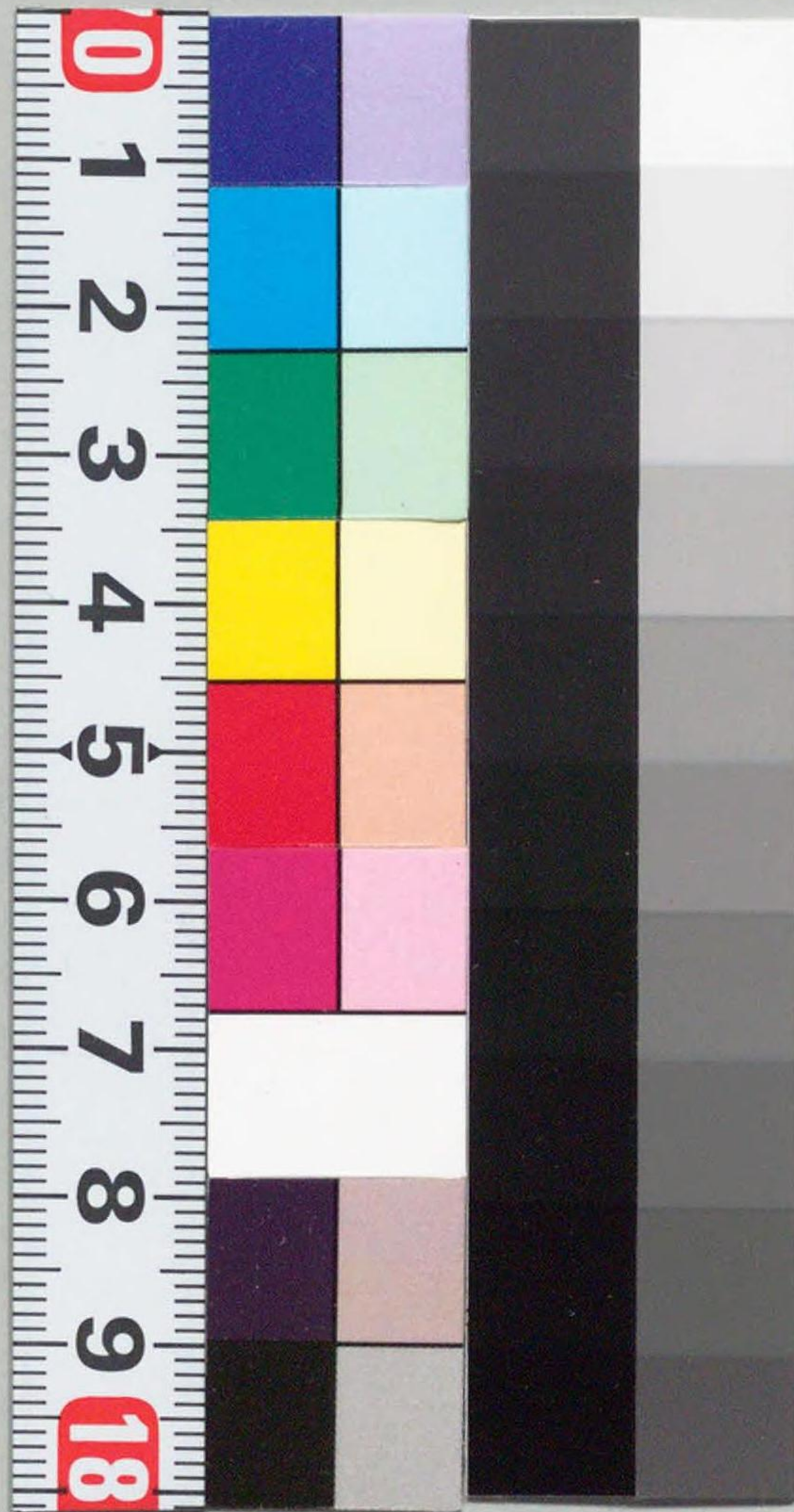


和
十五年七月



狩
獵
關
係
法
規

法社
人團
大
日
本
獵
友
會



CZ
431
H38

目次

一、狩獵法……………一頁

一、狩獵法施行規則……………六

一、引拔銃身ノ空氣銃ニ關スル件……………六

一、狩獵免狀、鳥獸捕獲許可證、禁獵區ノ木標又ハ制札、銃獵禁止區域ノ制札及獵區管理者又ハ巡守ノ携帶スヘキ證票雛形……………九

一、狩獵法施行ニ關スル内訓ノ件……………九

一、銃砲火藥類取締法……………二五

一、銃砲火藥類取締法施行規則……………三〇

一、國立公園法……………四

一、國立公園法施行令……………四

一、國立公園法施行規則……………三

一、史蹟名勝天然紀念物保存法……………六〇



I 種
W

1200502086533

一、史蹟名勝天然紀念物保存法施行令……………六一

一、史蹟名勝天然紀念物保存法施行規則……………六三

一、朝鮮狩獵規則……………六四

一、朝鮮狩獵規則取扱手續……………六五

一、臺灣銃獵取締規則……………六六

一、臺灣ニ於ケル保護鳥ノ種類及保護期間ノ件……………六七

一、樺太狩獵取締規則……………六八

一、關東州銃獵取締規則……………六九

一、關東州野生鳥獸保護規則……………七〇

一、關東州野生鳥獸保護規則ニ依ル鳥類ノ保護期間……………七一

一、南洋群島狩獵取締規則……………七二

一、南洋群島狩獵取締規則施行細則……………七三

一、滿洲帝國鳥獸保護法……………七四

一、滿洲帝國鳥獸保護法施行規則……………七五

狩 獵 法

大正七年四月四日
法律第三十二號

(改正) 大正一一年第七四號、昭和一五年第四七號

第一條 狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ハ之ヲ捕獲スルコトヲ得
ス

狩獵鳥獸ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム

主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認
ムルトキハ區域ヲ定メ其ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スル
コトヲ得

第二條 狩獵鳥類ノ雛及鳥類ノ卵ハ主務大臣ノ定ムル
モノヲ除クノ外之ヲ捕獲又ハ採取スルコトヲ得ス

第三條 狩獵鳥獸ハ狩獵免許ヲ受クルニ非サレハ主務
大臣ノ定ムル銃器、網、鞆繩、箠、鉤又ハ罾ヲ使用

シテ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス但シ欄、柵其ノ他ノ圍
障アル邸宅地域内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ捕獲ス
ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 地方長官必要ト認ムルトキハ主務大臣ノ認可
ヲ受ケ前條ノ規定ニ依ル獵具ノ使用以外ノ方法ヲ以
テスル狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ
得

第五條 狩獵免許ハ甲乙ノ二種トシ狩獵免許ヲ下付ス
甲種狩獵免許ハ銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テ狩獵ヲ
爲ス者ニ、乙種狩獵免許ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲
ス者ニ之ヲ下付ス
狩獵免許ノ有効期間ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五
日迄トス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四
月十五日迄トス

主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ノ期間内ニ於テ特ニ其ノ狩獵ノ期間ヲ限定スルコトヲ得

前二項ノ期間内ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ罰金ニ處セラレタル者ハ一年ヲ經過スルニ非サレハ狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 未成年者、白痴者又ハ瘋癲者ハ乙種狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

乙種狩獵免許ヲ受ケタル者白痴者又ハ瘋癲者ト爲リタルトキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

第八條 狩獵免許ヲ受クル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ
一等 綜合所得稅ヲ納ムル者及其ノ家族 七十圓

二

二等 一等以外ノ者ニシテ分類所得稅年額二十圓以上ヲ納ムルモノ及其ノ家族 四十圓
三等 一等及二等以外ノ者 十八圓

前項ノ免許稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第九條 主務大臣又ハ地方長官ハ鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲又ハ土地所有者ノ出願其ノ他ノ事由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ十年以内ノ期間ヲ定メ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第十條 地方長官ハ危險豫防ノ爲其ノ他必要ト認ムルトキハ銃獵禁止區域ヲ設クルコトヲ得

第十一條 左ニ掲クル場所ニ於テハ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス
一 御獵場
二 禁獵區

三公 道
四 公 園

五 社寺境内
六 墓 地

第十二條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ事由ニ因リ主務大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前數條ノ規定ニ拘ラス鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スルコトヲ得

主務大臣又ハ地方長官前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ許可證ヲ下付ス

第十三條 前條第一項ノ規定ニ依リ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス但シ警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 國 道府縣、郡又ハ市町村ハ命令ノ定ムル所ニ依リ獵區ヲ設定スルコトヲ得

第十五條 爆發物、劇藥、毒藥、据銃又ハ危險ナル器具若ハ陷穽ヲ使用シテ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第十六條 日出前若ハ日没後、市街其ノ他家稠密ノ場所若ハ衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ處アル人畜、建物、汽車、電車若ハ艦船ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 欄、柵其ノ他ノ圍障又ハ作物アル土地ニ於テハ占有者、共同狩獵地ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ狩獵又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 獵區ニ於テハ獵區設定者ノ承認ヲ得ルニ非サレハ狩獵又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ

三

捕獲ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 狩獵免許ヲ受ケケタル者又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取セムトスルトキハ狩獵免許狀又ハ許可證ヲ携帯スヘシ

警察官吏、憲兵、森林官吏又ハ市町村長ハ前項ノ規定ニ依リ携帯スヘキ狩獵免許狀若ハ許可證又ハ捕獲シタル鳥獸若ハ採取シタル鳥類ノ卵ヲ検査スルコトヲ得

第二十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

二 第一條第三項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者

三 銃獵禁止區域ニ於テ銃獵ヲ爲シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ第十九條第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミタル者

五 狩獵免許狀又ハ第十二條第二項ノ許可證ヲ他人ニ使用セシメタル者

第二十三條 御獵場、禁獵區、銃獵禁止區域、獵區又ハ共同狩獵地ノ標識ヲ移轉、汚損、毀壞又ハ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四條 狩獵免許又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ罰金ニ處セラレタルトキハ其ノ狩獵免許又ハ許可ハ效力ヲ失フ

四

一 第三條、第十一條、第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ違反シタル者

二 詐欺ノ行爲ヲ以テ狩獵免許又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者

第三條又ハ第十五條ノ規定ニ違反スル犯罪ノ用ニ供シタル物件及其ノ犯罪ニ因リテ得タル獵獲物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收ス

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第十七條ノ規定ニ違反シタル罪ハ占有者又ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

一 第一條第一項、第二條、第五條第五項、第十三條、第十七條、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ違反シタル者

第二十五條 第十九條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十六條 本法中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(太正八年八月十五日勅令第三八一號)
(ニ依リ大正八年九月一日ヨリ施行)

第二十八條 明治三十年法律第七號ハ之ヲ廢止ス

第二十九條 舊法ニ依リ爲シタル許可ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
舊法ニ依リ設ケタル禁獵區又ハ銃獵禁止ノ區域ハ之

五

ヲ本法ニ依リ設ケタル禁獵區又ハ銃獵禁止區域ト看
做ス

第三十條 本法施行前爲シタル共同狩獵地ノ免許ハ仍
其ノ效力ヲ有ス

前項免許ノ期間ハ申請ニ因リ之ヲ更新スルコトヲ得
第三十一條 狩獵免許ヲ受ケタル者舊法第二十一條乃
至第二十三條ノ規定ニ依リ處罰セラレタルトキハ其
ノ狩獵免許ハ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ一年ヲ經
過スルニ非サレハ狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

附 則 (昭和十五年法律第四七號)

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行ノ日ヨリ昭和十六年四月十五日迄ニ狩獵ノ免
許ヲ受クル者ニ付テハ昭和十四年分所得稅二百圓以上
ヲ納ムル者及其ノ家族ヲ以テ第八條ニ規定スル一等ニ

やまどり	うづら	えぞやまどり
こじゆけい	てつけい	かも
あいさ	がん	くひな
ばん	だいでん	むなぐろ
ちどり	しぎ	はと
ひよどり	つぐみ(とらつぐみ及く ろつぐみヲ除ク)	
しろはら	まみちやじない	からす(ほしがら ヲ除ク)
かけす(るりかけ すヲ除ク)	しめ	いかる
いすか	ましこ	あとり
ひわ	かはらひわ	うそ
すずめ	にふないすずめ	ほほじろ
みやまほほじろ	あをじ	くろじ
かしらだか	のじこ	

該當スル者、昭和十四年分所得稅ヲ納ムル者及其ノ家
族ヲ以テ同條ニ規定スル二等ニ該當スル者、此等ノ者
以外ノ者ヲ以テ同條ニ規定スル三等ニ該當スル者ト看
做シ本法ヲ適用ス

狩獵法施行規則

大正八年八月十六日
農商務省令第二十八號

(改正) 大正一〇年農商務省令第三號、一一年第一九號、一二年第二
一號、一四年農林省令第二四號、一五年第二二號、昭和三年
第七號、五年第七號、一〇年第一八號、一五年第一八號

第一條 狩獵鳥獸ノ種類左ノ如シ
あはうどり う ごゐさぎ
あをさぎ わし くまたか
はやぶさ みさこ きじ

獸類各種但シかもしか、牝いたち、かはをそ及あま
みのくろりさぎヲ除ク

第一條ノ二 左ノ鳥獸ハ農林大臣ノ指定シタル區域ニ
於テ捕獲スル場合ヲ除クノ外之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

こじゆけい てつけい 牝じか
農林大臣前項ノ規定ニ依ル指定ヲ爲シタルトキハ鳥
獸ノ名稱及區域ヲ告示スヘシ

第二條 左ノ鳥類ノ狩獵期間ハ十一月一日ヨリ翌年二
月末日迄トス

きじ	やまどり		
左ノ獸類ノ狩獵期間ハ十二月一日ヨリ翌年二月末日 迄トス			
あなぐま	牡いたち	きつね	しか
たぬき	てん	むささび	りす

第三條 農林大臣狩獵法第一條第三項ノ規定ニ依リ第

一條ノ二第一項ノ規定ニ依ル鳥獸以外ノ狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限シタルトキハ鳥獸ノ名稱、禁止

又ハ制限シタル獵法、期間及區域ヲ告示ヘスシ

地方長官狩獵法第四條ノ規定ニ依リ狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限シタルトキ亦前項ニ同シ

第四條 狩獵法第三條ノ規定ニ依ル獵具左ノ如シ

一 銃器 裝藥銃其ノ他瓦斯力ニ依リ彈丸ヲ發射スル銃器、散彈ヲ使用シ得ヘキ空氣銃、劔

拔銃身ノ空氣銃及引拔銃身ノ空氣銃(銃身ニ引拔管ヲ使用シタルモノ)

二 網 罽羅、霞 網其ノ他ノ張網、突網及投

網

三 鵜繩 流 鵜及張 鵜繩

モチナワ、ナガシモチ、ハリモチナワ

モチナワ、ナガシモチ、ハリモチナワ

第五條 狩獵免許ヲ受ケムトスル者ハ地方長官ニ出願

シ狩獵免許ノ下付ヲ受クヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載シ寫眞(出願前三年

内ニ撮影シタル無帽、正面、半身像、名刺型、無臺

紙ノモノ)及一等免許ヲ受ケムトスル者ヲ除クノ外

狩獵法第八條第一項ニ定ムル稅額ニ關スル證明書ヲ

添附スヘシ

一 免許ノ種類及等級

二 出願者ノ身分、職業、氏名、住所及生年月日

三 狩獵法又ハ本則ノ規定ニ依リ罰金ニ處セラレタルコトノ有無及罰金ニ處セラレタルコトアルト

ルコトノ有無及罰金ニ處セラレタルコトアルト

キハ其ノ年月日

地方長官特別ノ事由アリト認ムルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ地域ヲ指定シ其ノ地域内ニ住所ヲ有スル者ノ出願ニ付前項ノ規定ニ依ル寫眞ノ添附ヲ免除スルコトヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ地域ヲ指定シタルトキハ之ヲ告示スヘシ

第六條 狩獵法第八條第一項ニ規定スル綜合所得稅及

分類所得稅ハ狩獵免狀ノ有効期間開始ノ年ノ決定ニ

依ル但シ甲種ノ勤勞所得及甲種ノ配當利子所得ニ對

スル分類所得稅ハ狩獵免狀ノ有効期間開始ノ年ノ前

年中ノ納付額ニ依ル

退職所得ニ對スル分類所得稅額並ニ甲種ノ配當利子

所得中本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又

四 簞ハエ、高タカ簞及千本簞センボンハゴ

五 鈎ツリバリ、流鈎ナガシバリ

六 罽ワナ、括ククリワナ、箱罽ハコワナ、箱ハコ、落オシ、壓トラ及虎バサミ、挾

ハ預金(法人ニ對スル預金ニ限ル)ノ利子及合同運用信託ノ利益ニ對スル分類所得稅額ハ狩獵法第八條第一項ニ規定スル分類所得稅額ニハ之ヲ算入セス 狩獵法第八條第二項ノ收入印紙ハ之ヲ前條ノ願書ニ貼附シ消印ヲ爲サスシテ差出スヘシ

第七條 狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケムトスル

者ハ飼養又ハ有害鳥獸ノ驅除ヲ目的トスル場合ニ於

テハ地方長官ニ、其ノ他ノ場合ニ於テハ農林大臣ニ

出願シ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受クヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 出願者ノ職業、氏名、住所及生年月日

二 捕獲スヘキ鳥獸又ハ採取スヘキ卵ノ種類及員數

三 捕獲又ハ採取ノ目的、期間、區域及方法並學術研

究ヲ目的トスルモノニ在リテハ研究ノ事項及方法

狩獵法第十一條ニ掲クル場所又ハ獵區内ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シ若ハ卵ヲ採取セムトスル場合ニ於テハ前項ノ外其ノ旨ヲ記載スヘシ

第八條 狩獵免許又ハ狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ住所若ハ氏名ヲ變更シタルトキハ二週間内ニ其ノ旨ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
新住所地カ他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ前項ノ期間内ニ免許ノ種類及等級並身分、職業、氏名、住所及生年月日ヲ新住所地ノ地方長官ニ届出ツヘシ
第九條 狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者之ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ遲滞ナク當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ツヘシ
前項ノ届出アリタルトキハ農林大臣又ハ地方長官ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第十條 狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡ヲ請求スルコトヲ得
狩獵免狀ノ再渡ヲ受ケムトヨル者ハ收入印紙ヲ以テ手数料金二圓ヲ納ムヘシ

第十一條 狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ之ヲ返納スヘシ
前項ノ規定ニ依リ狩獵免狀ヲ返納スル場合ニ於テハ其ノ捕獲シタル鳥獸ノ道府縣別種類別員數ヲ、鳥獸捕獲許可證ヲ返納スル場合ニ於テハ其ノ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル卵ノ種類別員數及其ノ處置ヲ届出ツヘシ
前項ノ規定ハ失効前ノ狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ返納スル場合ニ付之ヲ準用ス

第十一條ノ二 飼鳥ノ賣買ヲ業トスル者ハ左ノ鳥類ニ關スル受渡簿ヲ備ヘ其ノ閉鎖ノ時ヨリ五年間之ヲ保存スヘシ

をしどり	くわくこう	ほととぎす
かはせみ	みみづく	ふくろう
きつつき	ありすひ	ひばり
せきれい	びんずい	たひばり
ひたき	るり	とらつぐみ
くろつぐみ	あかはら	まみじろ
いそひよどり	あかひげ	こまどり
のごま	よしきり	せつか
うぐひす	めぼそ	きくいただき
みそざざい	れんじやく	もず
ごじふから	しじふから	やまから

ひがら	こがら	えなが
ほしがらす	るりかけす	をなが
むくどり	めじろ	

前項ノ受渡簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 讓受ケタル鳥類ノ種類及員數、讓渡人ノ職業、氏名、住所及其ノ捕獲者ナリヤ否ヤノ別並讓受ノ年月日
- 二 讓渡シタル鳥類ノ種類、員數及讓渡ノ年月日、
- 三 前二號以外ノ事由ニ因ル鳥類ノ員數ノ異動、其ノ事由及年月日
- 四 鳥類ノ員數ノ異動アリタル日ニ於ケル鳥類ノ種類別差引現在員數

第十一條ノ三 地方長官ハ鳥獸又ハ獵具ノ地方名稱ニシテ第一條、第二條、第四條又ハ前條ノ施行ノ爲必

要ト認ムルモノハ之ヲ告示スヘシ

第十二條 禁獵區ハ御料地又ハ國有地ヲ其ノ區域トセ
ス且其ノ區域ニ府縣以上ニ互ラサル場合ニ於テハ地
方長官、其ノ他ノ場合ニ於テハ農林大臣之ヲ設ク
農林大臣必要ト認ムルトキハ前項前段ノ場合ニ於テ
モ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第十三條 農林大臣又ハ地方長官禁獵區ヲ設ケタルト
キハ其ノ區域及存續期間ヲ告示スヘシ禁獵區ヲ廢止
シ又ハ其ノ區域若ハ存續期間ヲ變更シタルトキ亦同
シ

第十四條 農林大臣又ハ地方長官ハ禁獵區ヲ表示スル
爲其ノ周圍ノ隅角及見易キ場所ニ百二十間ヲ超エサ
ル間隔ヲ以テ木標ヲ設クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ
其ノ區域分明ナル場合ニ於テハ木標ノ間隔ヲ延長シ

ルコトヲ得ス

第十九條 獵區設定者第二十四條及第二十六條ノ規定
ニ依リ狩獵者ノ員數ヲ制限シタル場合ニ於テ狩獵法
第十八條ノ規定ニ依リ狩獵ノ承認ヲ受ケムトスル者
ノ員數其ノ制限ヲ超過シタルトキハ抽籤ノ方法ニ依
ルニ非サレハ狩獵者ヲ定ムルコトヲ得ス

第二十條 獵區設定者ハ正當ノ事由アル場合ヲ除ク外
狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ狩
獵法第十八條ノ規定ニ依ル承認ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十一條 獵區設定者狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル
承認ヲ爲シタルトキハ承認證ヲ交付スヘシ

第二十二條 獵區設定者ハ狩獵法第十八條ノ規定ニ依
ル承認ヲ受クル者ヲシテ承認料ヲ納付セシムルコト
ヲ得

又ハ制札ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

土地所有者ノ出願ニ依リ設ケタル禁獵區ニ付テハ農
林大臣又ハ地方長官ハ出願者ヲシテ前項ノ木標又ハ
制札ヲ設ケシムルコトヲ得

第十五條 地方長官ハ銃獵禁止區域ヲ表示スル爲其ノ
場所ニ制札ヲ設クヘシ

第十六條 獵區ノ存續期間ハ二十年以内トス
前項ノ期間ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ更新スルコ
トヲ得

第十七條 獵區ハ三百町歩以上ノ面積タルコトヲ要ス
但シ農林大臣ニ於テ特別ノ事由アリト認メタル場合
ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 獵區ハ其ノ區域内ノ土地ノ上ニ登記シタル
權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設定ス

前項ノ承認料ハ一日ニ付五圓ヲ超ユルコトヲ得ス但
シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ハ狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケ
學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲鳥獸ノ捕獲ヲ爲ス者
ニ對シテハ之ヲ適用セス

第二十三條 獵区内ニ於テ狩獵又ハ狩獵法第十二條第
一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲サムトスルトキハ
第二十一條ノ承認證ヲ携帯スヘシ

第二十四條 獵區設定者ハ狩獵日、狩獵者ノ員數又ハ
狩獵者ニ對シ其ノ捕獲スヘキ鳥獸ノ種類及員數、獵
具、獵法、捕獲區域其ノ他狩獵ニ關スル制限ヲ爲ス
コトヲ得

第二十五條 獵區ヲ設定セムトスル者ハ入獵規程ノ外
左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可

ヲ受クヘシ

- 一 獵區ノ名稱
- 二 獵區ト爲サムトスル土地ノ地目別面積、水面ノ面積及其ノ面積三百町歩ニ滿タサルトキハ其ノ事由
- 三 獵區ノ存續期間
- 四 獵區ト爲サムトスル區域ニ於ケル過去一年ノ季節別鳥獸棲息狀況及其ノ以前ニ於ケル概況
- 五 一狩獵期間當ノ月別狩獵者(甲、乙種別)及捕獲鳥獸(種類別)見込數
- 六 鳥獸ノ保護蕃殖ヲ爲スヤ否ヤノ別及之ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ方法
- 七 獵區内ニ棲息スル鳥獸ニ因ル損害ノ補償ニ關スル事項

一四

- 八 獵區設定ニ要スル費用及一年當收支概算
 - 九 第二十二條第二項但書ノ規定ニ依ル承認料ヲ納付セシムルモノニ在リテハ其ノ事由
 - 十 管理者又ハ巡守ヲ置クヤ否ヤノ別及之ヲ置クモノニ在リテハ其ノ員數
- 前項ノ書面ニハ獵區ノ區域及位置ヲ示ス圖面、第十條ノ同意ヲ證スル書面並獵區設定ニ關スル決議ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
- 獵區設定者第一項第三號、第六號又ハ第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二十六條** 入獵規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 事務所ノ位置
 - 二 獵區ノ區域

- 三 第二十四條ノ規定ニ依ル制限
- 四 入獵申込ノ手續
- 五 第十九條ノ規定ニ依ル抽籤ノ方法
- 六 入獵承認ノ通知方法
- 七 第二十二條ノ規定ニ依ル承認料及其ノ納付ノ方法
- 八 承認證ノ交付、携帶及提示ニ關スル事項
- 九 案内者又ハ勢子ヲ置クモノニ在リテハ之ニ關スル事項
- 十 入獵者、其ノ從者、獵區管理者、巡守、案内者又ハ勢子ニ徽章ヲ佩用セシムルモノニ在リテハ其ノ旨及雛形
- 十一 退獵ノ手續
- 十二 入獵規程違反者ニ對スル處置

一五

- 獵區設定者前項第二號、第三號、第五號、第七號、第九號又ハ第十二號ノ事項ヲ變更シ又ハ新ニ設ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 前條第一項第二號、第四號、第五號、第八號及第二項ノ規定ハ第一項第二號ノ事項ヲ變更セムトスル場合ニ於ケル認可ノ申請ニ付之ヲ準用ス
- 第二十七條** 第十六條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請セムトスルトキハ更新ノ期間ヲ定メ申請書ニ第十八條ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ期間滿了ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ
- 第二十八條** 入獵規程ヲ變更シタルトキハ第二十六條第二項ニ掲クル事項ニ關スルモノヲ除クノ外遲滞ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ツヘシ第二十五條第一項

第一號又ハ第十號ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十九條 農林大臣獵區ノ設定又ハ其ノ存續期間ノ

更新ノ認可ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ告示スヘシ

告示シタル事項ニ付變更ヲ生シタルトキ亦同シ

一 獵區ノ名稱

二 事務所ノ位置

三 獵區ノ區域

四 獵區ノ存續期間

五 承認料

六 狩獵ニ關スル制限

第三十條 獵區設定者ハ其ノ獵區ニ管理者又ハ巡守ヲ

置クコトヲ得

獵區設定者管理者又ハ巡守ヲ置キタルトキハ其ノ氏名

及住所ヲ農林大臣ニ届出テ且證票ヲ携帯セシムヘシ

告示スヘシ

第三十三條

獵區設定者獵區ヲ廢止セムトスルトキハ

廢止ノ日ヨリ三十日前ニ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ニ

届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ農林大臣ハ其ノ旨ヲ告示

スヘシ

第三十四條

農林大臣必要ト認ムルトキハ獵區設定者

ニ對シ獵區設定ノ認可ヲ取消シ第二十五條第一項第

三號、第六號、第七號、第十號ノ事項又ハ入獵規程

ノ變更、有害鳥獸ノ驅除、一定ノ期間ノ狩獵ノ停止

ヲ命シ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

農林大臣獵區設定ノ認可ヲ取消シ又ハ狩獵ノ停止ヲ

命シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十一條 獵區管理者又ハ巡守ハ何時ニテモ獵區内

ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スル者ニ對

シ第二十一條ノ承認證ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第三十二條 獵區設定者ハ獵區ノ區域ヲ表示スル爲必

要ナル標識ヲ設クヘシ

第三十二條ノ二 獵區設定者ハ前年四月十六日ヨリ其

ノ年四月十五日迄ノ間ニ於ケル獵區ノ成績ヲ様式第

一號及第二號ニ依リ毎年四月三十日迄ニ農林大臣ニ

報告スヘシ

第三十二條ノ三 獵區設定者ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ

一定ノ期間狩獵ノ停止ヲ爲スコトヲ得

前項ノ期間ヲ變更セムトスルトキハ農林大臣ノ認可

ヲ受クヘシ

前二項ノ認可ヲ爲シタルトキハ農林大臣ハ其ノ旨ヲ

二ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第三十六條 本則ニ依リ農林大臣ニ差出スヘキ書類ハ

地方長官ヲ經由スヘシ

第三十七條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ

警視總監トス

附則

第三十八條 本則ハ狩獵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條 共同狩獵地ノ免許期間ノ更新ヲ申請セム

トスル者ハ其ノ更新ノ期間ヲ定メ申請書ニ區域内ノ

土地所有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ期間滿了ノ

日ヨリ三月前ニ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第四十條 共同狩獵地ニ付テハ前條ノ外仍從前ノ例ニ

依ル

第四十一條 禁獵區及銃獵禁止區域ノ木標又ハ制札ニ

シテ本則施行前設ケタルモノハ本則ニ依リ之ヲ設ケタルモノト看做ス

附 則 (大正十四年農林省令第二十四號)

本令ハ大正十四年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條第一號中剝拔銃身ノ空氣銃ニ關スル規定ハ大正十九年四月十五日(昭和五年四月十五日)迄、第十一條ノ二ノ規定ハ大正十四年十一月三十日迄之ヲ適用セス
飼鳥ノ賣買ヲ業トスル者第十一條ノ二ニ掲クル鳥類ヲ飼養スルトキハ同條ノ規定ニ依ル受渡簿ニ其ノ鳥類ノ大正十四年十一月三十日現在ノ種類別員數ヲ記載スヘシ

本令施行ノ際現ニ存スル獵區ノ設定者ハ大正十四年十二月十五日迄ニ入獵規程及第二十五條第一項第七號ノ事項ヲ定ムルモノニ在リテハ之ヲ記載シタル書面ヲ差

出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ
獵區ニ於ケル狩獵ノ制限ニシテ本令施行ノ際現ニ效力ヲ有スルモノハ入獵規程ニ付前項ノ認可アル迄仍其ノ效力ヲ有ス

(様式省略)

附 則 (昭和十五年農林省令第十八號)

本令ハ昭和十五年法律第四十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

所得稅法第百六條ノ規定ニ依ル綜合所得稅ハ狩獵法第八條第一項ニ規定スル綜合所得稅ニハ之ヲ含マス

引拔銃身ノ空氣銃ニ關スル件

昭和五年十一月十五日
農林省令第八號

昭和五年農林省令第七號ハ引拔銃身ノ空氣銃ニシテ昭

備 考

「道府縣」トアル箇所ニハ當該道府縣名(東京市ニ在リテハ警視廳)ヲ表示スルコト

狩獵免狀、鳥獸捕獲許可證、
禁獵區ノ木標又ハ制札、銃
獵禁止區域ノ制札及獵區管
理者又ハ巡守ノ携帶スヘキ
證票雛形

大正八年八月十八日
農商務省告示第二百二十號

(改正) 大正十年三月農商務省告示第三三號、昭和十年七月農林省告示第二四〇號、昭和十一年八月告示第二五五號

狩獵免狀、鳥獸捕獲許可證、禁獵區ノ木標又ハ制札、銃獵禁止區域ノ制札及獵區管理者又ハ巡守ノ携帶スヘキ證票ノ雛形左ノ通定ム

和六年一月十五日迄ニ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ヨリ既製品タルノ證明ヲ受ケタルモノニ付テハ昭和八年四月十五日迄之ヲ適用セス
前項ノ規定ニ依リ證明ヲ受ケタル空氣銃ニハ其ノ銃床ノ部分ニ別記様式ニ依ル烙印ヲ押捺ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別 記
様 式



表

鳥獸捕獲許可證

農林省(廳府縣)

第 號

有效 自 年 月 日 至 年 月 日

印

〇四種

〇四〇種

〇六五種

〇四六種

〇八三種

〇九一種

鳥獸捕獲許可證雛形

折目

第 號

年 月 日

甲乙種 狩獵免狀

何 等 廳府縣

印

寫真欄

EP

(添附免除地域ニ付テハ
其旨記載シ捺印スルコト)

住所

職業

氏名

生年月日

各〇六種

七〇種

〇六種

〇三〇種

〇三〇種

〇八五種

〇九一種

〇八五種

〇四六種

〇四六種

〇五三種

狩獵免狀雛形 (甲種ハ綠色、乙種ハ白色)

裏

鳥獸名及數	區 域	方 法	目 的	生 年 月 日	職 業	住 所
二七種	二種			各〇六種		

〇三〇種

〇三〇種

〇八五種

〇九一種

〇八五種

〇四六種

〇四六種

裏

狩獵法令摘要

〇五種

〇三〇種

〇三〇種

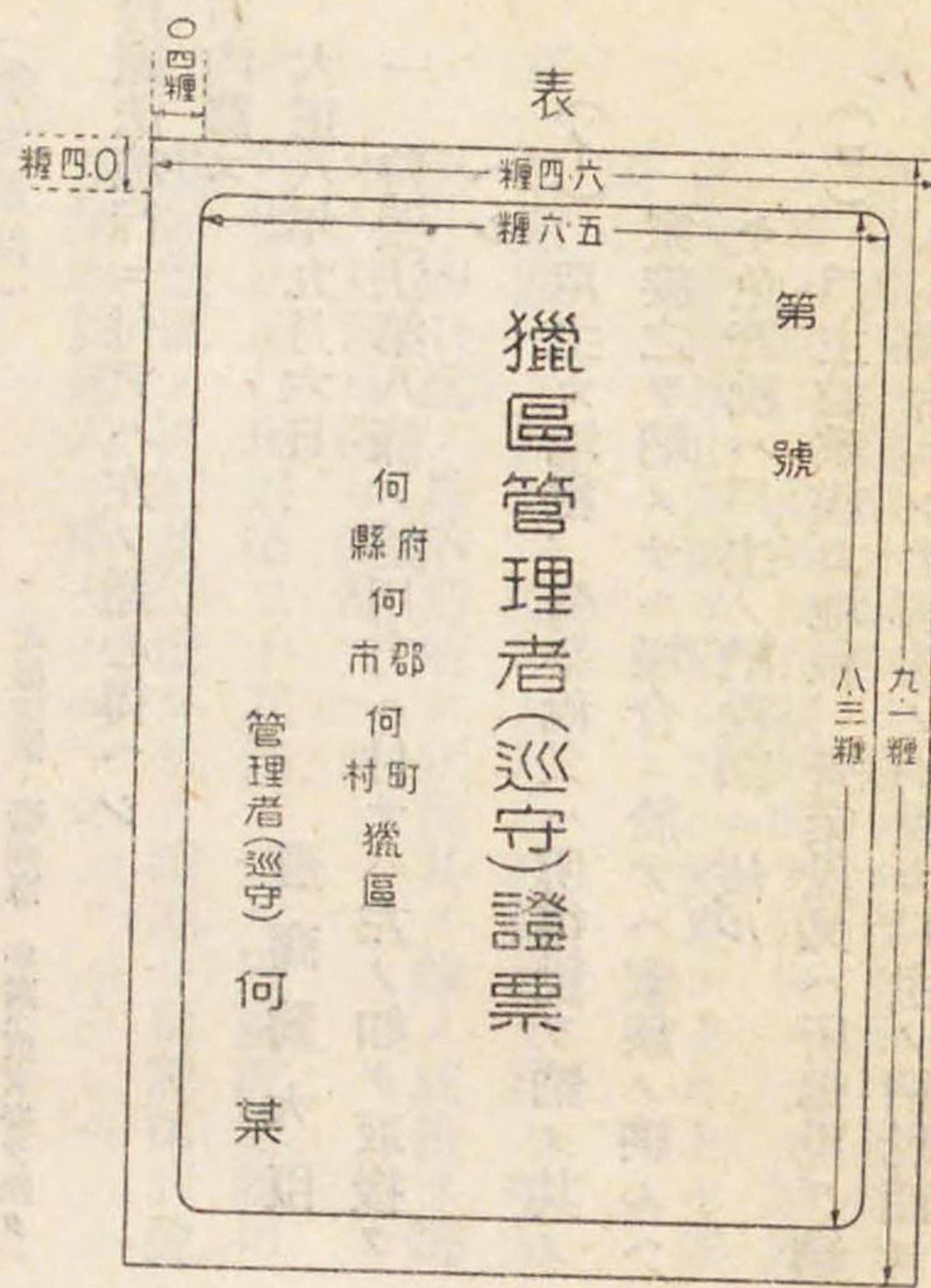
〇八五種

〇九一種

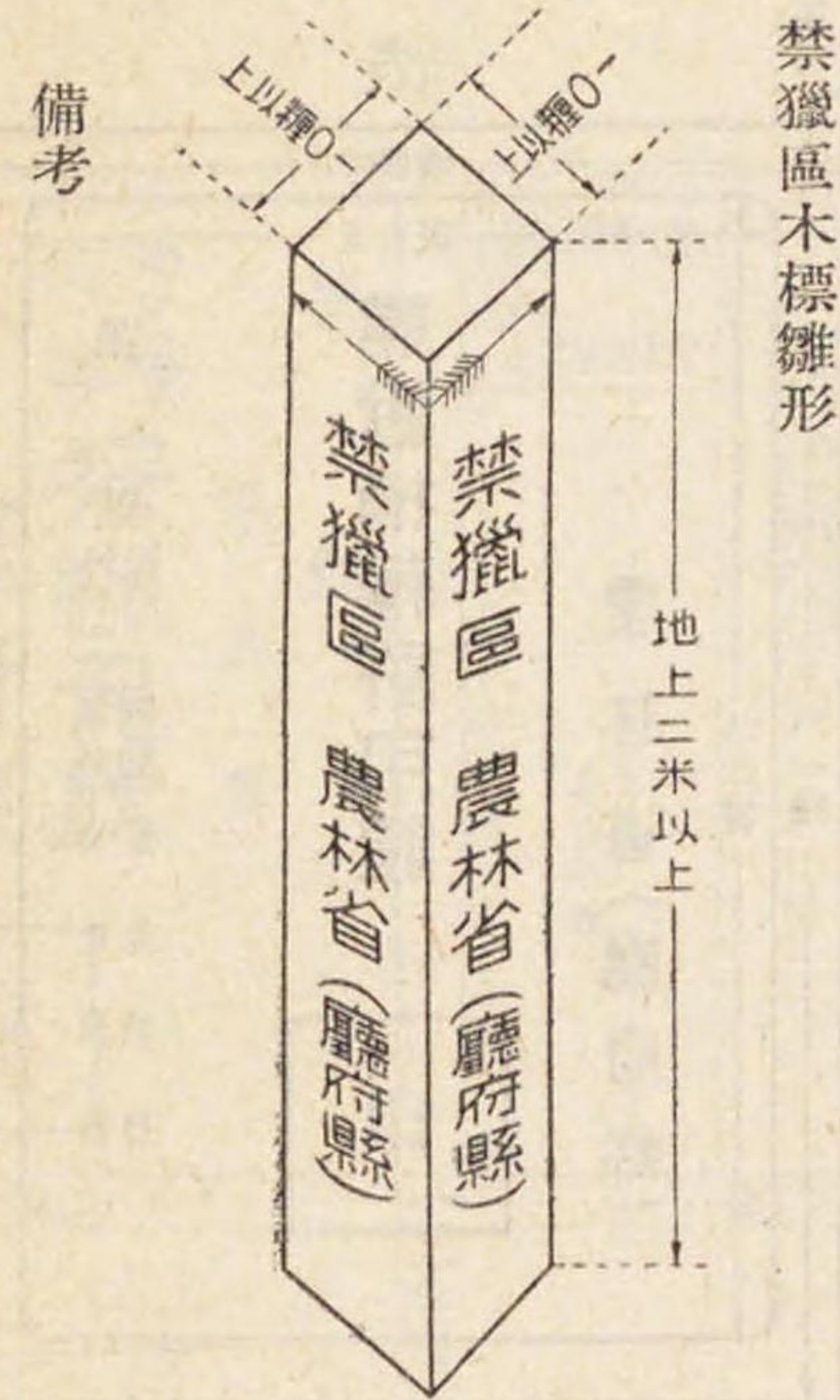
〇四六種

〇四六種

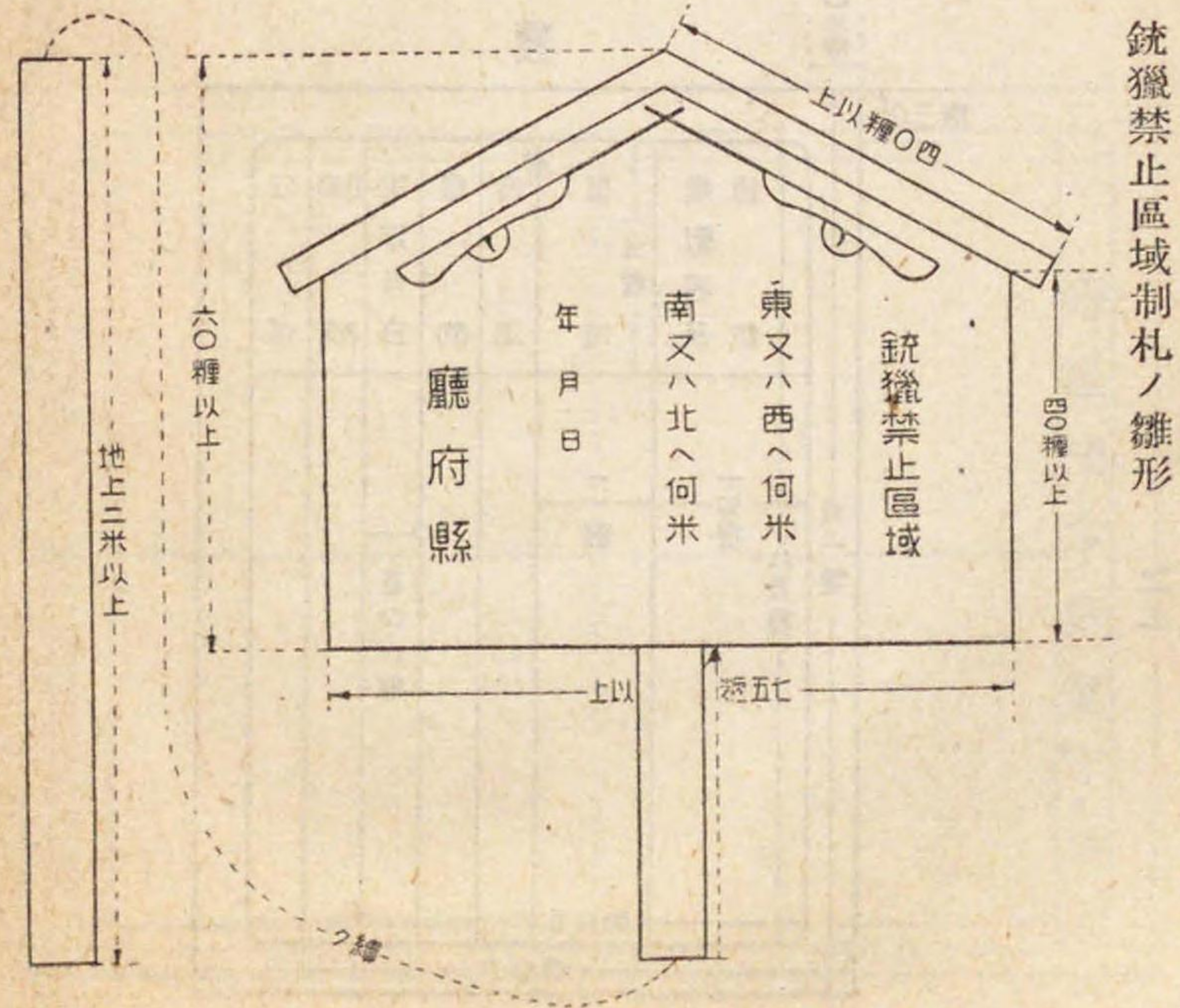
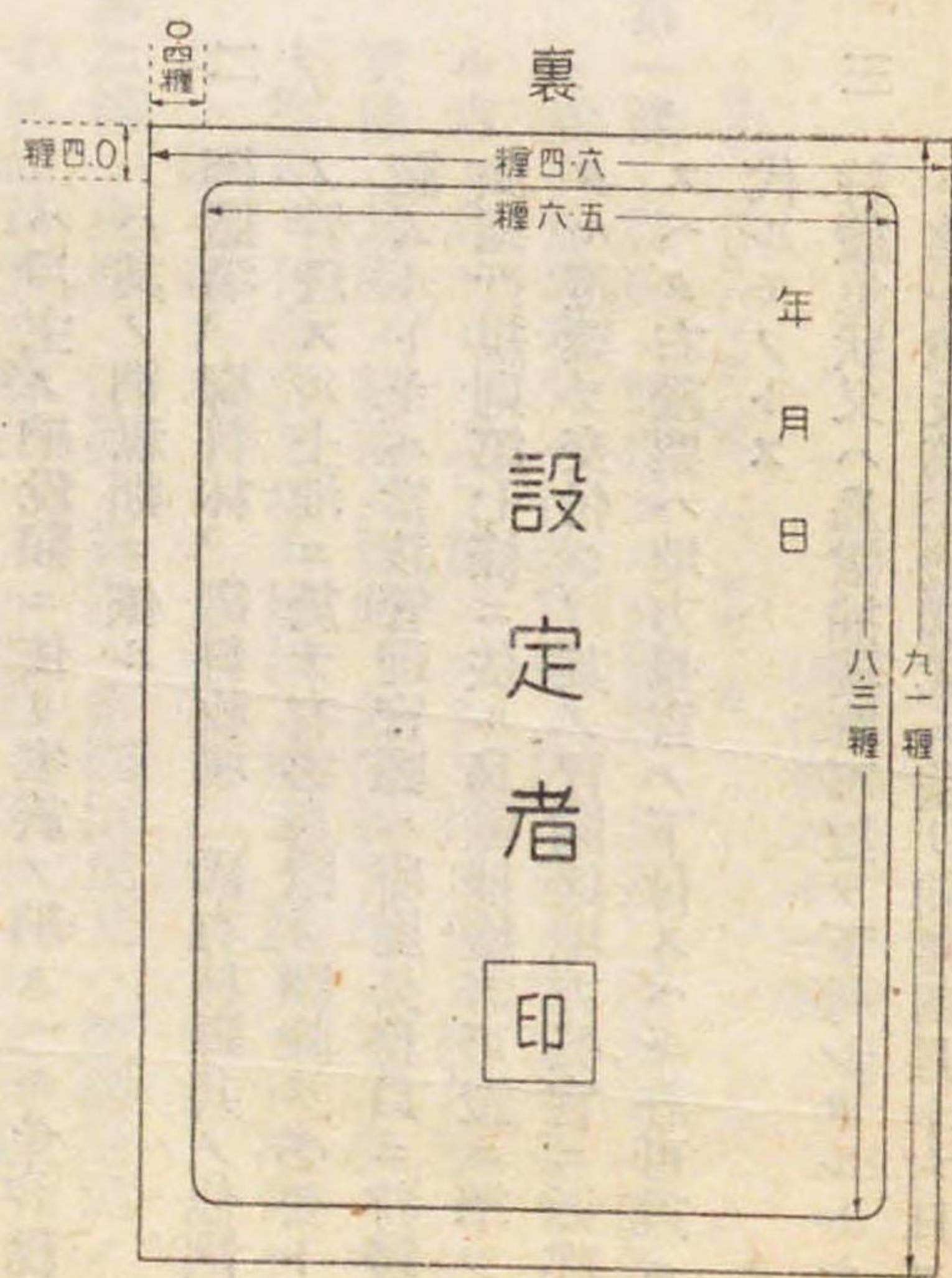
〇二二種



獵區管理者(巡守)證票雛形



備考
禁獵區ノ制札ハ銃獵禁止區域制札ニ準ス



銃獵禁止區域制札ノ雛形

狩獵法施行ニ關スル内訓ノ件

大正八年農第一〇四〇三號 内訓
北海道廳 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)

狩獵法施行ニ付テハ左ノ通心得ヘシ
右内訓ス

大正八年九月六日

農商務大臣

一 狩獵法第八條ノ適用方ニ付テハ左ノ如ク取扱フ

ヘシ

(イ) 戸主カ地租、營業稅又ハ所得稅ヲ納メ其ノ家族之ヲ納メサル場合ニ於テハ家族ノ納ムヘキ免許稅ハ戸主ノ納稅額ニ依ル

(ロ) 戸主並家族カ地租、營業稅又ハ所得稅ヲ納ムル場合ニシテ家族ノ納稅カ戸主ノ納稅額ヨリ少ナキトキハ家族ノ納ムヘキ免許稅ハ戸主

毎年五月末日迄ニ之ヲ差出スヘシ

四 禁獵區及銃獵禁止區域ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク其ノ理由、區域及存續期間ヲ報告スヘシ禁獵區及銃獵禁止區域ヲ廢シ又ハ變更シタルトキ亦同シ

五 禁獵區内ニ於ケル前年九月十五日ヨリ其ノ年九月十四日迄ノ鳥獸蕃殖ノ狀況其ノ他ノ成績ヲ毎年九月末日迄ニ報告スヘシ

六 狩獵法施行規則第二十五條ニ依ル獵區設定認可願並獵區ノ區域及位置ヲ示ス圖面ハ別記第三號及第四號様式ニ準セシムヘシ

(様式省略)

二四

ノ納稅額ニ依ルヘク、家族ノ納稅額カ戸主ノ納稅額ヨリ多キトキハ戸主ノ納ムヘキ免許稅ハ戸主ノ納稅額ニ依リ家族ノ納ムヘキ免許稅ハ其ノ納稅額ニ依ル

二 御獵場、御料林、御料牧場、國有林野其ノ他國ノ管理スル土地ニ於テ有害鳥獸ノ驅除ヲ必要ト認ムルトキハ當該管理官廳ハ所屬公務員ニ狩獵法施行規則第七條ニ依ル鳥獸捕獲許可證ニ準シタル證票ヲ交付シ、其ノ旨關係地方長官ニ通牒スヘク右證票ハ地方長官ノ下付スヘキ許可證ニ代ルモノトス

三 狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ下付シタルトキハ第一號及第二號様式ニ依リ前年四月十六日ヨリ其ノ年四月十五日迄ニ於ケル報告書ヲ調製シ

銃砲火藥類取締法

明治四十三年四月十三日
法律第五十三號

(改正) 大正六年第二號、一一年第二號

第一條 銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形若ハ修理ハ其ノ營業者又ハ行政官廳ノ許可若ハ委託ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ理化學上ノ實驗、鳥獸ノ捕獲及驅除、射的練習等ノ用ニ供スル火藥類ニ付命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 火藥、爆藥ノ製造ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル會社ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合、行政官廳ノ許可ヲ受ケ新規發明ニ係ル火藥、爆藥ヲ一定

二五

ノ期間試験ノ爲製造スル場合又ハ前條但書ノ規定ニ
該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 銃砲、火藥類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營マムト
スル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ製造業者カ
其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ卸賣ヲ爲
ス場合ハ此ノ限ニ在ラス
相續ニ依リ前項ノ營業ヲ繼續スル場合ハ許可ヲ受ケ
タルモノト看做ス

銃砲ノ修繕又ハ改造ノ業ヲ營ム者ハ銃砲製造業者ト
看做シ火藥類ノ變形又ハ修理ノ業ヲ營ム者ハ火藥類
製造業者ト看做ス

第四條 行政官廳ハ銃砲販賣業者及火藥類販賣業者ノ
道府縣ニ於ケル定員ヲ設クルコトヲ得
製造業者及行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ委託額以上ノ

第七條 銃砲、火藥類ハ之ヲ行商シ又ハ市場若ハ露店
其ノ他屋外ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條 銃砲、火藥類ノ輸出ハ其ノ製造若ハ販賣ノ業
ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非
サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 銃砲、火藥類ノ輸入ハ行政官廳ノ委託ヲ受ケ
タル者若ハ其ノ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳
ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ銃砲、
火藥類ノ製造所、貯藏所其ノ他銃砲、火藥類ヲ收藏
スルノ疑アル場所ニ臨檢シ又ハ銃砲、火藥類及之ヲ
收藏スルノ疑アル物件若ハ營業上ノ帳簿其ノ他ノ書
類ヲ檢査セシムルコトヲ得

行政官廳ハ危害豫防ノ爲銃砲、火藥類ノ製造所若ハ

同種類ノ火藥類ヲ製造スル者ニシテ其ノ製造シ又ハ
加工シタル銃砲、火藥類ノ販賣業ヲ兼ヌルモノハ前
項ノ定員ニ算入セス

第五條 銃砲、火藥類ノ製造、變形、修理又ハ販賣ニ
關シ許可ヲ受ケタル者行政官廳ニ於テ指定シタル期
間内ニ其ノ事業ヲ開始セス若ハ事業開始後一年以上
其ノ事業ヲ休止シタルトキ又ハ法令ニ違反シタルト
キ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行
政官廳ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止若ハ
制限スルコトヲ得

第六條 軍用銃砲、火藥類ノ讓渡又ハ讓受ハ法令ニ特
別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ製造若ハ販賣ノ業
ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非
サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

火藥類ノ貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ火藥類ニ
關シ若ハ其ノ貯藏、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上
必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 行政官廳ハ保安上、軍事上又ハ外交上必要
アリト認ムル場合ニ於テ銃砲、火藥類ノ輸出若ハ輸
入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十二條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリ
ト認ムルトキハ銃砲、火藥類ノ授受、運搬、携帯ヲ
禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十三條 前二條ノ場合ニ於テ行政官廳ハ銃砲、火藥
類ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

第十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ
之ヲ定ム

一 本法ノ適用ヲ受クヘキ銃砲、火藥類ノ範圍及新

規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試験ノ爲製造
スル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ
營業トシテ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥
類ノ範圍

二 銃砲、火藥類ノ取引、授受、使用、運搬、貯藏
其ノ他ノ取扱

三 銃砲、火藥類ノ取扱人及火藥類ノ作業主任者ニ
關スル事項

四 銃砲、火藥類製造所及火藥類貯藏所ニ關スル事
項

五 火藥類ヲ要スル工事又ハ工業ニ關スル事項

第十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ全部又
ハ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ銃砲、火藥類ニ非サ
ル他ノ戎器又ハ爆發質物品ニ關シ之ヲ準用スルコト

ヲ得

本法ノ一部ヲ適用スルノ必要ナシト認ムル銃砲、火
藥類ニ關シテハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコト
ヲ得

第十六條 第一條、第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ、
許可ヲ受ケスシテ第三條ノ營業ヲ爲シ又ハ第五條若
ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二年
以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ又ハ第十一條ノ規
定ニ依ル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ未遂罪ヲ罰
ス

第十七條 第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ
處ス

第十八條 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又

ハ第十條第一項若ハ第十三條ノ規定ニ依ル當該官吏
ノ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執
行ニ際シ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛
偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ
三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火
藥類ニ關スル事業ヲ行フ者未成年者又ハ禁治產者ナ
ルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之
ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營
業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付
テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、

火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戶主、
家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ營業
又ハ事業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ
違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ
處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條 前二條ノ場合ニ於テハ罰金、科料又ハ沒
收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十三條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ
本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

刑法施行法第二十五條第一項中第一號ヲ削リ以下各號
順次繰上ク

(明治十四年三月勅令第十五號
ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行)

爆發物取締罰則ハ本法ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

附則 (大正十一年法律第二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(大正十二年勅令第七十四號) (ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行)

銃砲火藥類取締法施行規則

明治四十四年三月十一日 勅令第十六號

(改正) 大正六年第一八四號、一二年第一七六號

第一條 銃砲火藥類取締法ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用

銃砲及非軍用銃砲ヲ謂フ

軍用銃砲トハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ軍用銃砲トシテ指定シタル銃砲及千米突以上ノ距離ニ有效ニ彈著スヘキ裝置ヲ有シ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供シ得ヘ

ルアニリ及之ヲ主トスル混和物

三 火工品 實包、空包、藥筒、藥包、彈藥筒、火

藥若ハ爆發藥ヲ裝填シタル彈丸若ハ水雷、雷管、信管、爆管、門管、緩燃導火線一尺ノ燃燒時間十秒以上ヲ要スルモ、速燃導火線又ハ煙火其ノ他火藥若ハ爆發藥ヲ使用シタル火工品但シ玩具用普通火工品ヲ除ク

雷管又ハ信管ヲ裝置シタル導火線ハ雷管又ハ信管ト看做ス

第二條ノ二 新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試験

ノ爲製造スル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一 火藥 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥又ハ硝化纖

キ銃砲ヲ謂ヒ非軍用銃砲トハ其ノ他ノ銃砲ヲ謂フ

第二條 銃砲火藥類取締法ニ於テ火藥類ト稱スルハ左

ニ掲クル火藥、爆發及火工品ヲ謂フ

一 火藥 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥、硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥、又ハ硝化纖維素トナイトログリセリントノ結合物ヲ主トスル無煙火藥ノ類

二 爆發藥 雷酸鹽雷汞類起爆ノ用途ニ供スル窒化物窒化

鉛ノ其ノ他ノ起爆劑、ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥各種ダイナ、硝化鹽、鹽素酸鹽若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發藥又ハ爆發ノ用途ニ供スル棉火藥、芳香系列ノ硝化物ナイトペンジン、ナイトロナフサリン、ナイトロトリユオール、ピクリン酸及テトラナイトロメチー

維素ヲ主トスル無煙火藥

二 爆發藥 雷酸鹽雷汞類、ナイトログリセリン及之ヲ

主トスル爆發藥各種ダイナ、硝化アンモニア若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發藥、爆發ノ用途ニ供スル棉火藥、芳香系列ノ硝化物ナイトロベンロナフサリン、ナイトロトリユオール、ピクリン酸及テトラナイトロメチール類及之ヲ主トスル混和物又ハ煙火原料用爆發藥

三 火工品全部

第二條ノ三 左ニ掲クル場合ニ於テハ行政官廳ノ許可

ハ之ヲ受クルコトヲ要セス
一 理化學上ノ實驗トシテ少量ノ火藥類ヲ製造、變形又ハ修理スル場合

二 乙種狩獵免狀ノ下付ヲ受ケタル者又ハ學術研究

若ハ有害鳥獸驅除ノ爲銃器ヲ使用シテ鳥獸ヲ捕獲スルノ許可ヲ受ケタル者其ノ所要ノ銃用實包一日百箇以內ヲ製造スル場合

三 有害鳥獸威嚇ノ爲銃用空包發射ノ許可ヲ受ケタル者其ノ所要ノ銃用空包一日百箇以內ヲ製造スル場合

四 射的ノ練習又ハ競技ノ爲成年者タル練習者、競技者又ハ射的場ノ職員カ射的場內ニ於テ練習者又ハ競技者一人ニ付其ノ所要ノ非軍用銃用實包又ハ狹窄射擊用銃用實包一日三十箇以內ヲ製造スル場合

五 學校ノ發火演習ニ際シ其ノ職員カ校內ニ於テ學生又ハ生徒一人ニ付其ノ所要ノ銃用空包三十箇以內ヲ製造スル場合

六 學校ノ運動會又ハ競技會ニ際シ其ノ職員カ校內ニ於テ其ノ所要ノ信號用ノ銃用空包二百箇以內ヲ製造スル場合

第三條 銃砲火藥類取締法又ハ本令ニ於テ軍用火藥類ト稱スルハ專ラ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供スル火藥類ヲ謂ヒ普通火藥類ト稱スルハ其ノ他ノ用ニ供スル火藥類ヲ謂フ

第四條 銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形若ハ修理ニ付行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者ハ事業開始前製造スヘキ銃砲又ハ製造若ハ變形修理スヘキ火藥類ノ種類、數量、委託ノ年月日、委託ノ條件及委託官廳名ヲ其ノ官廳ノ證明書ヲ添付シテ作業地廳府縣長官ニ届出ツヘシ

第五條 軍用銃砲又ハ火藥若ハ爆藥煙火原料用火藥ノ又ハ爆藥ヲ除ク

製造ノ許可ハ作業地廳府縣長官ヲ經由シ陸軍ノ用ニ

供スル銃砲火藥類ニ付テハ内務大臣及陸軍大臣ニ、海軍ノ用ニ供スル銃砲火藥類ニ付テハ内務大臣及海軍大臣ニ、其ノ他ノ火藥類ニ付テハ内務大臣ニ之ヲ申請スヘシ

第六條 非軍用銃砲ノ製造、煙火原料用火藥若ハ爆藥ノ製造、火藥若ハ爆藥ノ變形修理又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ許可ハ作業地廳府縣長官ニ、銃砲火藥類ノ販賣營業ノ許可ハ營業地廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

第七條 行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ銃砲火藥類ヲ製造又ハ變形修理スル者ハ其ノ事業ニ要スル設備ニ付許可ヲ爲シタル行政官廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル廳府縣長官ノ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使

用スルコトヲ得ス其ノ變更ニ付亦同シ

第八條 銃砲火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ委託スル場合ニ於テハ委託行政官廳ハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ定ムルモノノ外取締上必要ナル設備又ハ事項ヲ命スルコトヲ得

前項ノ設備ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス
第九條 前二條ノ規定ハ危害豫防ニ關スル警察官ノ職權ヲ行使スルコトヲ妨ケス

第十條 第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケタル設備又ハ許可ノ條件トシテ若ハ第八條ノ規定ニ依リ命令セラレタル事項ヲ變更セムトスル者ハ許可又ハ委託ヲ爲シタル行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ
前項ノ許可申請ハ第五條ノ主務大臣ニ之ヲ爲ス場合ニ於テハ作業地廳府縣長官ヲ經由スヘシ

第十一條 銃砲火藥類取締法第三條ノ規定ニ依リ火藥

類販賣業者ニ與フル許可ヲ分チテ甲乙ノ二種トス
甲種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ニ關
スル各種ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得

乙種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ヲ輸
入シ之ヲ官廳又ハ火藥類販賣業者ニ賣渡スノ外火藥
類ニ關スル他ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 銃砲販賣業者及前條ノ火藥類販賣業者ノ道
府縣ニ於ケル定員ハ内務大臣之ヲ定ム

第十三條 火藥類販賣業者ハ火藥庫ヲ備フルコトヲ要
ス

第十四條 火藥類販賣業者ノ火藥類取扱ハ火藥類取扱
免狀ヲ有スル者之ニ任スルコトヲ要ス一年間二千貫
以上ノ火藥又ハ千貫以上ノ爆藥ヲ消費スル者ニ付亦

ヘシ但シ消費地定マラス若ハ二箇所以上ニ亘リ又ハ
銃砲火藥類取締法施行區域外ニ係ル場合ハ所轄廳府
縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

第十七條 左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓受ニ付テハ内
務大臣ノ定メタル場合ニ限り前條ノ區分ニ依リ警察
官署ニ之ヲ申請スルコトヲ得

- 一 火藥 三貫以內
- 二 爆藥 一貫三百匁以內
- 三 工業用雷管 二千箇以內
- 四 信管 千箇以內
- 五 爆管 千箇以內
- 六 門管 千箇以內
- 七 導火線 五百間以內

第十八條 軍用銃砲又ハ左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓

同シ

前項ノ規定ハ火藥及爆藥ヲ共ニ消費スル場合ニ於テ
ハ爆藥一貫ヲ火藥二貫ト看做シ合算シタル數量ニ付
之ヲ適用シ消費ノ場所二箇以上アル場合ニ於テハ各
消費場所ニ付之ヲ適用ス

第十五條 火藥類取扱免狀ニ關スル規定ハ内務大臣之
ヲ定ム

第十五條ノ二 火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業
所ニハ火藥類ノ作業主任者ヲ置クコトヲ要ス

火藥類ノ作業主任者ノ資格ニ關スル規定ハ内務大臣
之ヲ定ム

第十六條 火藥類讓渡ノ許可ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ
申請スヘシ

火藥類讓受ノ許可ハ消費地廳府縣長官ニ之ヲ申請ス

受ノ許可ハ所轄警察官署ニ之ヲ申請スヘシ

- 一 火藥 一貫三百匁以內
- 二 銃用實包 千箇以內
- 三 銃用空包 千箇以內
- 四 銃用實包又ハ銃用空包ニ要スル雷管又ハ雷管附
藥莖 二千箇以內

第十九條 前條ノ許可ハ二月間其ノ效力ヲ有ス

前三條ノ許可ハ許可ヲ爲シタル行政官廳取締上必要
ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得
前三條ノ規定ニ依ル讓受ノ許可ハ讓受ヲ要スル事由
ノ消滅ニ依リ其ノ效力ヲ失フ

第二十條 軍用銃砲又ハ火藥類ノ讓渡ハ公賣又ハ競賣
法若ハ民事訴訟法ニ依ル競賣ノ場合ニ於テハ許可ヲ
要セサルモノトス

第二十一條 鑛業法ニ依リ鑛物ノ試掘若ハ採掘ヲ爲ス者又ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火藥類消費ノ許可ヲ受ケタル者カ其ノ消費スル火藥類ヲ讓受クル場合ニ於テハ第十七條各號ノ火藥類ニ限リ、狩獵免許ヲ受ケタル者カ其ノ消費スル火藥類ヲ讓受クル場合ニ於テハ第十八條各號ノ火藥類ニ限リ行政官廳ノ許可ヲ要セサルモノトス

第二十二條 火藥類ハ左ニ掲クル者カ其ノ火藥類ヲ所持スル場合ノ外之ヲ所持スルコトヲ得ス

- 一 火藥類販賣業者
- 二 火藥類製造業者又ハ委託若ハ許可ヲ受ケ火藥類ノ製造若ハ變形修理ヲ爲ス者
- 三 第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ火藥類讓受ノ許可ヲ受ケタル者

前二項ノ規定ハ第十八條各號ノ火藥類ニ之ヲ適用セス

第二十三條 銃砲火藥類取締法第八條ノ許可ハ輸出港、同法第九條ノ許可ハ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ許可ハ軍用銃砲及軍用火藥類ニ付テハ輸出港又ハ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ヲ經由シ陸軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及陸軍大臣ニ、海軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及海軍大臣ニ之ヲ申請スヘシ

第二十四條 前條ノ許可ハ一年間其ノ效力ヲ有ス但シ許可ヲ爲シタル行政官廳取締上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二十五條 輸入又ハ讓受ノ許可ヲ受ケタル火藥類ハ

- 四 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ火藥類ヲ讓受ケタル者
 - 五 第二十三條ノ規定ニ依リ火藥類ノ輸入又ハ輸出ノ許可ヲ受ケタル者
 - 六 運送業者
 - 七 相續又ハ遺贈ニ因リ火藥類ノ所有權ヲ取得シタル者
 - 八 法人ノ合併ニ因リ火藥類ノ所有權ヲ取得シタル者
 - 九 前各號ニ掲クル者ノ家族又ハ從業者
- 火藥類ヲ所持スル者廢業、許可ノ取消其ノ他ノ事由ニ因リ前項各號ニ該當セサルニ至リタルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ讓渡其ノ他必要ナル處分ヲ爲スヘシ

其ノ許可ヲ爲シタル行政官廳、第二十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ讓受ケタル火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ之ヲ他ノ用途ニ充ツルコトヲ得ス

第二十六條 銃砲火藥類取締法第十一條ノ規定ニ依リ銃砲火藥類ノ輸出若ハ輸入ノ禁止又ハ制限ハ内務大臣之ヲ行フ但シ陸軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及陸軍大臣、海軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及海軍大臣之ヲ行フ

第二十七條 火藥類ハ第十八條各號ノ一ニ該當スルモノ及左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外火藥庫又ハ倉庫以外ノ場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得ス

- 一 土工其ノ他一時ノ事業ニ要スル火藥類ヲ其ノ事業中假貯藏所ニ貯藏スル場合

二 一月以内ニ完了スヘキ土工其ノ他ノ事業ニ要スル火藥類ニシテ第十七條各號ノ一ニ該當スルモノヲ其ノ事業中十日以内ヲ限り所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ其ノ指定シタル安全ノ場所ニ貯藏スル場合

三 火藥ヲ裝填セサル雷管附藥莖ヲ安全ナル場所ニ貯藏スル場合

第二十八條 火藥類貯藏所ニ貯藏スル火藥類ハ左ノ數量ヲ超過スルコトヲ得ス

火藥類ノ種類	貯藏所ノ種類		
	火藥庫	倉庫	假貯藏所
火藥	一萬貫	十二貫	五千貫
爆藥	五千貫	三貫	二千五百貫

銃用實包	二千萬箇	三萬箇	千萬箇
銃用空包	二千萬箇	三萬箇	千萬箇
銃用雷管	五千萬箇	十萬箇	五百萬箇
工業用雷管	三百萬箇	一萬箇	三十萬箇
信管、爆管、門管	無制限	三萬箇	無制限

前項ニ掲ケサル火工品ハ其ノ原料タル火藥又ハ爆藥ノ數量ニ依リ前項ノ規定ヲ適用ス但シ雷管附藥莖及導火線ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 内務大臣ハ安全ナル位置ニ於テ特別ノ設備ヲ爲シタル火藥庫ニ付危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ於テ前條ノ數量ヲ超過スル火藥類ノ貯藏ヲ許可スルコトヲ得

第三十條 火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニ存置シ得ヘキ火藥類ノ數量ハ其ノ設備ニ應シ製造若ハ變形修理ヲ委託若ハ許可シ又ハ其ノ營業ヲ許可シタル行政官廳之ヲ指定ス

第三十一條 火藥類ハ内務大臣ノ定ムル區別ニ依リ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ之ヲ貯藏スヘシ但シ倉庫ニ在リテハ不燃質物ヲ以テ造リタル隔壁ニ依リ遮斷スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 火藥類貯藏所ノ新設ハ所在地廳府縣長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ増築、改築、修繕又ハ模様替ノ工事ヲ爲ストキ亦同シ

工事ヲ竣リタル火藥類貯藏所ハ警察官ノ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十三條 第二十八條ノ規定ニ依リ火藥類貯藏所ニ

貯藏スルコトヲ得ヘキ最大數量ノ火藥類ノ貯藏ニ付テハ倉庫ヲ除クノ外其ノ外壁ヨリ左ノ距離ヲ保有スヘシ

- 一 宮城、離宮、御用邸又ハ神宮へ二十町以上
 - 二 皇陵、社寺、學校、公園、電氣瓦斯若ハ石油ノ工場、電力若ハ火力ヲ使用スル工場、發火質物件ヲ蓄積スル場所、鐵道、軌道、汽船ノ常航路若ハ繫留所又ハ市街地へ四町以上
 - 三 宅地、國道、縣道、電線、瓦斯ノ傳導管、火ヲ取扱フ場所、蓄積シタル燃焼物其ノ他内務大臣ノ指定シタル箇所へ五十間以上
- 前項ノ距離ハ貯藏數量ノ増減ニ從ヒ貯藏數量ノ平方根ニ比例シテ之ヲ増減ス但シ各距離ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

倉庫ハ其ノ外壁ノ周圍ニ一間以上ノ空地ヲ保有スヘシ但シ貯藏數量ヲ減少シ特ニ廳府縣長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

廳府縣長官ハ必要ト認ムルトキハ假貯藏所ニ付第一項及第二項ノ規定ニ依ル距離以上ニ於テ特ニ其ノ距離ヲ指定スルコトヲ得

火藥類貯藏所相互ノ距離ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第三十四條 內務大臣ハ天然又ハ人造ノ掩體ノ狀態其ノ他土地又ハ設備ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ於テ前條ニ定ムル距離ノ減少ヲ許可スルコトヲ得

第三十五條 第二十九條及前條ノ許可ハ狀況ノ變更ニ依リ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

關スル營業ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ授受、運搬又ハ携帯スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他變裝シタル戎器ニ之ヲ準用ス

第四十條 拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ業務又ハ修學ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外未成年者之ヲ所持シ又ハ未成年者ヲシテ之ヲ所持セシムルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他ノ戎器ニ之ヲ準用ス

第四十一條 火藥類ノ運搬、所持其ノ他ノ取扱ハ未成年者之ヲ爲シ又ハ未成年者、白痴者若ハ瘋癲者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ス但シ第十八條各號ノ火藥類ニ付テハ十五歳以上ノ者ニ限り之ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十六條 第二十八條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ超過スル火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ同時ニ之ヲ運搬スルコトヲ得ス

第三十七條 火藥類ハ他ノ物件ト混包シ又ハ變裝若ハ假裝シテ之ヲ所持、運搬又ハ託送スルコトヲ得ス前項ノ物件ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官ニ之ヲ届出ツヘシ

第三十八條 地盤又ハ物件ヲ破碎スルノ目的ヲ以テ火藥又ハ爆藥ヲ使用セムトスル者ハ使用地警察官署ノ許可ヲ受クヘシ但シ內務大臣カ特ニ定メタル場合又ハ鑛業法ニ依ル鑛物ノ試掘若ハ採掘ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ職務又ハ銃砲ニ

第四十二條 營業者ハ許可ヲ受ケサル者ニ銃砲火藥類又ハ第三十九條ノ戎器ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ讓受ニ付許可ヲ要セサル場合及銃砲火藥類取締法施行區域外ニ居住スル者ニシテ當該行政官廳ニ依リ移入ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シ銃砲火藥類ヲ移出讓渡スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 試驗ノ結果不良品ト認定セラレタル火藥類ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ所持者ニ於テ直ニ必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第四十四條 第十一條乃至第十五條、第二十二條、第二十七條、第二十九條及第三十一條乃至第三十六條ノ規定ハ緩燃導火線ニ之ヲ適用セス

銃砲火藥類取締法第六條、第八條及第九條並本令第十一條乃至第十五條、第二十二條、第二十七條乃至

第二十九條及第三十一條乃至第三十六條ノ規定ハ煙火及遞信大臣カ船舶備付用ノ爲特ニ指定シタル煙火類似ノ火工品ニ之ヲ適用セス

緩燃導火線及煙火ニ付必要ナル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム

第二項ノ船舶備付用火工品ニ付必要ナル規定ハ遞信大臣之ヲ定ム

第四十五條 第七條、第八條第二項、第十條第一項、第十三條、第十四條、第十五條ノ二第一項、第二十二條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十一條、第三十二條、第三十六條、第三十七條第一項、第三十八條、第四十二條及第四十三條ノ規定ニ違反シタル者、第三十三條ノ規定ニ違反シ又ハ本令ニ依ル許可若ハ指定ノ範圍ヲ超エテ火藥類ヲ貯藏シ

タル者竝本令ニ基キテ發スル内務大臣ノ命令ノ規定ニ適合セサル火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十七條 第四條又ハ第三十七條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十八條 銃砲火藥類取締法第十條乃至第十三條及第十六條乃至第十八條ノ規定ハ銃砲火藥類ニ非サル他ノ戎器及爆發質物品ニ之ヲ準用ス

第四十九條 公賣又ハ競賣法若ハ民事訴訟法ニ依ル競賣ヲ爲ス者ハ銃砲火藥類取締法及本令ノ適用ニ付テハ之ヲ讓渡人ト看做ス

第五十條

左ノ事項ハ内務大臣之ヲ定ム但シ鐵道ニ依ル輸送ニ關スル事項ハ鐵道大臣、郵便及船舶ニ依ル輸送及船舶ニ於ケル常用火藥類ノ貯藏ニ關スル事項ハ遞信大臣之ヲ定ム

一 火藥類ノ貯藏、收納、荷造其ノ他ノ取扱ノ方法及制限

二 第四十三條ノ規定ニ依ル火藥類試驗及不良品處置方法

三 火藥類運搬ノ方法及制限

四 火藥類作業所及火藥類貯藏所ノ設備

五 火藥類作業所及火藥類貯藏所ニ於テ遵守スヘキ事項

第五十一條

前條ノ規定ニ依ル命令ハ鑛業法第七十一條ノ規定ニ依リ農商務大臣ノ發スル命令ノ效力ヲ妨

クルコトナシ

附則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條及第十四條ノ規定ハ仍二年間之ヲ適用セス

本令施行前火藥商又ハ甲種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ甲種火藥類販賣業者、輸入及卸賣ノ營業ニ限り許可ヲ受ケタル者又ハ乙種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ乙種火藥類販賣業者トシテ各其ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ際本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ適合セサル火藥類貯藏所ハ所在地廳府縣長官ノ指定シタル期間ニ於テ之ヲ改造スヘシ

國立公園法

昭和六年四月一日
法律第三十六號

第一條 國立公園ハ國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ區域ヲ定メ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 本法ニ於テ國立公園計畫ト稱スルハ國立公園ノ保護又ハ利用ニ關スル統制及施設ノ計畫ヲ謂ヒ國立公園事業ト稱スルハ國立公園計畫ニ基キ執行スベキ事業ニシテ道路、廣場、苑地、運動場、野營場、宿舍其ノ他命令ヲ以テ指定スル施設ニ關スルモノヲ謂フ

第三條 國立公園計畫及國立公園事業ハ國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ主務大臣之ヲ決定ス

第四條 國立公園事業ハ行政官廳之ヲ執行ス
主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ公共團體ヲ

四四

シテ國立公園事業ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得
行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ特許ヲ受ケ國立公園事業ノ一部ヲ執行スルコトヲ得

第五條 國立公園事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ國庫、公共團體ヲシテ之ヲ執行セシムル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス
行政官廳國立公園事業ヲ執行スル場合ニ於テ主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ其ノ執行ニ要スル費用ノ一部ヲ公共團體ヲシテ負擔セシムルコトヲ得
行政官廳ニ非ザル者國立公園事業ヲ執行スル場合ニ於テ國庫ハ其ノ費用ノ一部ヲ補助スルコトヲ得

第六條 國立公園事業ノ執行ニ依リ生ジタル施設ハ其ノ事業ヲ執行ジタル者之ヲ管理ス

主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ公共團體ヲ指定シテ行政官廳ノ執行スル國立公園事業ニ依リ生ジタル施設ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ管理者ヲ定メタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項及第二項ノ規定ニ依ル管理ノ費用ハ行政官廳之ヲ管理スル場合ニ在リテハ國庫、公共團體之ヲ管理スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者之ヲ管理スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

第七條 行政官廳又ハ公共團體ノ管理スル國立公園ノ施設ニ付占用又ハ使用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者

ハ占用料又ハ使用料ヲ徵收スルコトヲ得但シ前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ヲ除ク

前項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ徵收金ハ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第八條 主務大臣ハ國立公園ノ風致維持ノ爲國立公園計畫ニ基キ其ノ區域内ニ特別地域ヲ指定スルコトヲ得

特別地域内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 工作物ノ新築、改築又ハ増築

二 水面ノ埋立又ハ干拓

四五

三 鑛物ノ試掘若ハ採掘、砂鑛ノ採取又ハ土石ノ採掘

四 木竹ノ伐採

五 廣告物、看板其ノ他之ニ關スル物件ノ設置
特別地域内ノ山林ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地租其ノ他ノ公課ヲ免除スルコトヲ得

第九條 主務大臣ハ國立公園ノ保護又ハ利用ノ爲必要アリト認ムルトキハ其ノ區域内ニ於テ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限シ又ハ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止セラレ又ハ措置ヲ命ゼラレタルガ爲損害ヲ被リタル私人ニ對シテハ通常生ズベキ損害ニ限り國庫之ヲ補償ス
勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫ハ第一項ノ規定ニ依リ一定ノ行爲ヲ著シク制限セラレタル爲損害ヲ被リタル

有者ニ通知スベシ

第一項ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ同項但書ノ場合ヲ除クノ外其ノ行爲ヲ爲シタル者之ヲ補償スベシ

前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ許可ヲ爲シタル地方長官之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ對シテ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ズ

第一項但書ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ國庫之ヲ補償ス

第九條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 國立公園委員會ノ組織及權限ニ關スル事項

私人ニ對シ其ノ損害ヲ補償スルコトヲ得
前二項ノ規定ニ依ル補償金額ハ主務大臣之ヲ決定ス其ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ズ

第十條 主務大臣ハ第八條第二項ノ規定、同條同項ノ許可ニ附シタル條件又ハ前條第一項ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 國立公園ニ關シ實地調査ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障礙物ヲ除却スルコトヲ得但シ行政官廳ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者及占

ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ズ

第十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 第八條第二項ノ規定、同條同項ノ許可ニ附シタル條件又ハ第九條第一項ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十六條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ規

定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得
附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和六年勅令第二百四十一號)
ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行

國立公園法施行令

昭和六年九月十八日
勅令第二百四十二號

(改正) 昭和十三年勅令第二十號

第一條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケントスル者ハ左ノ
書類及圖面ヲ具シ厚生大臣ニ申請スベシ

- 一 起業目論見書
- 二 一般平面圖
- 三 施設ノ創設ニ關スル經費概算書

四 施設ノ經營ニ關スル收支概算書
五 其ノ他厚生大臣ニ於テ必要ト認ムル書類又ハ圖
面

第二條 厚生大臣ハ國立公園事業ノ特許ニ國立公園計
畫上其ノ他公園上必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第三條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者ハ厚生大臣
ノ指定スル期間内ニ施設ノ供用ヲ開始スベシ
厚生大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項
ノ期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第四條 厚生大臣ハ國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者
ニ對シ期間ヲ指定シ工事施行ノ認可ヲ申請セシムル
コトヲ得
前項ノ工事施行ノ認可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ
添附スベシ

- 一 工事設計書
- 二 工事設計圖
- 三 工事費豫算書
- 四 特許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ會社
設立登記ノ謄本

第一項ノ認可ヲ受ケタル者ハ厚生大臣ノ指定スル期
間内ニ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムベシ
前條第二項ノ規定ハ第一項及前項ノ期間ノ伸長ニ之
ヲ準用ス

第五條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者第一條又ハ
前條第二項ノ規定ニ依ル書類又ハ圖面ニ記載セル事
項ヲ變更セントスルトキハ厚生大臣ノ認可ヲ受クベ
シ

第六條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者ハ厚生大臣

ノ許可ヲ受クルニ非ザレハ其ノ事業ノ全部又ハ一部
ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ其ノ特許ヲ受ケタ
ル者法人ナル場合ニ於テ總會ノ決議又ハ總社員ノ同
意ニ因ル解散ニ付亦同ジ

第七條 國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務
ノ讓渡ニ付テハ厚生大臣ノ許可ヲ受クベシ
國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ノ會社
合併ニ因ル承繼ニ付テハ合併前厚生大臣ノ許可ヲ受
クベシ

國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ
相續人ハ其ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ヲ承繼ス
第八條 厚生大臣ハ國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者
ニ對シ事業ノ狀況ニ關シ検査ヲ爲シ、報告ヲ爲サシ
メ其ノ他監督上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第九條 左ノ場合ニ於テハ國立公園事業ノ特許ハ當該

範圍ニ付其ノ效力ヲ失フ

- 一 特許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ施設ノ供用開始期間内(工事施行ノ認可ヲ申請セシムル場合ニ在リテハ其ノ認可申請期間内)ニ會社設立ノ登記ヲ爲サザルトキ
- 二 工事施行ノ認可申請期間内ニ其ノ認可ヲ申請セザルトキ

三 工事施行ノ認可申請ニ對シ不認可ノ處分アリタルトキ

四 事業ノ全部又ハ一部ニ付廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

五 事業ヲ營ム法人解散シタルトキ

第十條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者法令若ハ之

ヲ受クベシ

第十三條 行政官廳國立公園事業ヲ執行セントスルト

キハ厚生大臣ニ協議ヲ爲スベシ

第十四條 左ニ掲グル國立公園區域内ノ國有地ハ之ヲ

內務大臣ノ管理ニ移スベシ

- 一 國有林野中國立公園ノ施設ノ敷地及其ノ附屬地ヲ包容スル集團施設地區並ニ國立公園事業上必要ナル自動車道路ノ敷地
- 二 不要存置國有林野ニ屬スル土地ニシテ國立公園計畫上重要ナルモノ但シ部分林、保管林、委託林、豫約開墾地及長期貸付地ヲ除ク
- 三 前二號ニ掲グルモノノ外雜種財產タル土地但シ所管大臣ニ於テ管理スルヲ必要トスル特別ノ事由アルモノヲ除ク

五〇

ニ基キテ爲ス處分又ハ特許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ厚生大臣ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトヲ得

第十一條 前二條ノ規定ニ依リ國立公園事業ノ特許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ厚生大臣ハ特許ヲ受ケタル者ニ對シ原狀回復其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第十二條 厚生大臣ハ國立公園事業ノ執行ヲ命ゼラレタル公共團體ニ對シ工事施行ノ認可ヲ申請セシムルコトヲ得

第四條第二項ノ規定ハ前項ノ認可申請ニ之ヲ準用ス第一項ノ認可申請書ニ添附シタル書類又ハ圖面ニ記載セル事項ヲ變更セントスルトキハ厚生大臣ノ認可

四 營林財產及雜種財產ヲ除クノ外國立公園計畫上重要ナル土地ニシテ厚生大臣ノ管理ニ屬セシムルヲ適當トスルモノ

前項ノ土地ハ厚生大臣所管大臣ト協議シテ之ヲ定ム前二項ノ規定ハ國有財產法施行令第三條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第十五條 行政官廳ニ非ザル者ノ管理スル國立公園ノ施設ニ付テハ其ノ管理者管理方法ヲ定メ遲滞ナク厚生大臣ニ届出ヅベシ其ノ管理方法ヲ變更シタルトキ亦同ジ
厚生大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ管理方法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十六條 國立公園法第八條又ハ第九條ノ規定ニ基キ厚生大臣ノ許可ヲ受クベキ行爲ヲ行政廳ニ於テ爲サ

ソトスルトキハ厚生大臣ニ協議ヲ爲スベシ
國立公園法第九條ノ規定ニ基キ厚生大臣ニ届出ヲ爲
スベキ行爲ヲ行政廳ニ於テ爲サントスルトキハ厚生
大臣ニ通知スベシ

附則

本令ハ國立公園法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和六年
十月一日ヨリ施行）

國立公園法施行規則

昭和六年九月十九日
內務省令第二十五號

（改正）昭和八年第二七號

第一條 內務大臣國立公園ノ指定ヲ爲シタルトキハ官
報ヲ以テ之ヲ告示ス其ノ區域ヲ變更シタルトキ亦同
ジ

第二條 左ノ施設ハ國立公園法第二條ノ規定ニ依リ之

ヲ指定ス

- 一 自動車、車庫、自動車道其ノ他自動車ニ關スル
運輸施設、航空機、格納庫、飛行場其ノ他航空
機ニ關スル運輸施設、船舶、埠頭、棧橋其ノ他
船舶ニ關スル運輸施設及橋梁
- 二 水道、下水道、汚物處分施設、醫療救急施設、
公衆浴場、水泳場及釣魚場
- 三 博物館、植物園、動物園及水族館
- 四 造林施設及養魚施設
- 五 砂防施設及防火施設

第三條 內務大臣國立公園計畫又ハ國立公園事業ノ決
定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ其ノ要領ヲ告示ス其
ノ計畫又ハ事業ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第四條 國立公園事業ノ特許申請書ニハ左ノ書類ヲ添

附スベシ

- 一 會社發起人ニ在リテハ定款
- 二 會社ニ在リテハ定款及會社登記ノ謄本並ニ國立
公園事業ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ總社員
ノ同意書ノ謄本
- 三 會社以外ノ法人ニ在リテハ定款、寄附行爲又ハ
規約及法人登記ノ謄本並ニ總會ノ決議錄ノ謄本
- 四 組合ニ在リテハ其ノ契約書ノ謄本及國立公園事
業ニ關スル總組合員ノ同意書ノ謄本

第五條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 起業ノ種類
- 二 起業ノ目的
- 三 起業資金ノ總額及其ノ出資方法
- 四 施設ノ位置及規模ノ概要

五 工事ヲ施行スル場合ニ在リテハ工事ノ概要及工
事施行期間

六 施設ノ經營期間

第六條 一般平面圖ハ起業ノ種類ニ從ヒ縮尺五萬分一
乃至千分一ノ平面圖トシ施設ノ位置及其ノ附近地ノ
現況ヲ記載スベシ

第七條 施設ノ創設ニ關スル經費概算書ニハ其ノ總額
ヲ測量費、監督費、用地費、土工費、建物費、設備
費、總係費、豫備費等ノ各項ニ分チ數量、單價及金
額ヲ記載スベシ

第八條 施設ノ經營ニ關スル收支概算書ニハ收入及支
出ノ總額、內譯並ニ其ノ計算ノ基ク所ヲ示シ且起業
資金ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スベシ

第九條 工事設計書ニハ工事設計ノ要領、工事施行ノ

順序、方法其ノ他工事ノ實施ニ關シ必要ナル事項ヲ記載スベシ

第十條 工事設計圖ハ工事ノ種類ニ從ヒ平面圖、側面圖、斷面圖、構造圖又ハ意匠配色圖ニ分チ縮尺二千五百分一以上トス

平面圖ハ一般平面圖ヲ補足スルモノタルベク平面圖、側面圖及斷面圖ニハ工事ノ施行ニ依リ附近地ニ變化ヲ及ボス程度ヲ併セ記載スベシ

第十一條 工事費豫算書ニハ第七條記載ノ各項ヲ目ニ分チ各其ノ數量、單價、金額及內譯ヲ示スベシ

第十二條 國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ノ讓渡ノ許可申請書ニハ當事者連署シ左ノ書類ヲ添附スベシ

一 讓渡契約書ノ謄本

二 讓受人ガ會社發起人ナル場合ニ於テハ定款
三 讓渡人又ハ讓受人ガ法人ナル場合ニ於テハ讓渡ニ關スル總會ノ決議錄又ハ總社員ノ同意書ノ謄本、組合ナル場合ニ於テハ讓渡ニ關スル總組合員ノ同意書ノ謄本

四 讓受人カ國立公園事業ノ經營者ニ非ザル法人ナル場合ニ於テハ定款、寄附行爲又ハ規約及法人登記ノ謄本、組合ナル場合ニ於テハ其ノ契約書ノ謄本

第十三條 前條ノ規定ハ國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ノ會社合併ニ因ル承繼ニ之ヲ準用ス

第十四條 國立公園事業ヲ營ム法人ノ解散ノ許可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且解散ニ關スル總會ノ決議錄又ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添附スベシ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ國立公園事業ノ特許ヲ受

ケタル者ハ遲滞ナク之ヲ內務大臣ニ届出ヅベシ

一 工事ニ著手シ又ハ之ヲ竣功セシメタルトキ

二 施設ノ供用ヲ開始シタルトキ

三 會社設立ノ登記ヲ爲シタルトキ（工事施行ノ認可ヲ申請セシムル場合ヲ除ク）

國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ノ讓渡終了シタルトキハ遲滞ナク當事者連署ノ上之ヲ內務大臣ニ届出ヅベシ國立公園事業ヲ營ム會社ノ合併終了シタルトキ亦同ジ

相續ニ因リ國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ヲ承繼シタル者ハ戶籍謄本ヲ添へ遲滞ナク之ヲ內務大臣ニ届出ヅベシ

第十六條 內務大臣特別地域ノ指定ヲ爲シタルトキハ

官報ヲ以テ之ヲ告示ス其ノ地域ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十七條 國立公園法第八條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ具シ內務大臣ニ申請スベシ

一 設計書又ハ施行方法書

二 行爲ノ種類ニ從ヒ設計又ハ施行方法ノ表示ニ必要ナル圖面

設計書又ハ施行方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 行爲ノ種類
二 行爲ノ目的
三 行爲地ノ所在、地目、地番及面積
四 行爲ノ種類ニ從ヒ工作物（廣告物、看板其ノ他之ニ關スル物件ヲ含ム）ノ設計又ハ行爲ノ施行

方法

五 著手及完了ノ期日

第一項ノ書類又ハ圖面ニ記載セル事項ヲ變更セント
スルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十八條 左ニ掲グル行爲ハ國立公園法第八條第二項

ノ規定ニ依ル許可ヲ受クルコトヲ要セズ

一 井溝、井堰、水樋、水車、風車、水槽等ノ新
築、改築又ハ増築

二 門、生垣、圍牆、園舎、禽舎等ノ新築、改築又
ハ増築

三 社寺境内地又ハ墓地ニ於ケル鳥居、燈籠、墓碑
等ノ新築、改築又ハ増築

四 炭竈、炭燒小屋、伐木小屋、造林小屋、畜舎、
納屋、肥料溜等ニシテ公道其ノ他公衆ノ自由ニ

出入シ得ル場所ヨリ二十メートル以上ノ距離ヲ
有スルモノノ新築、改築又ハ増築

五 舩、浜、網納屋、漁具干場等ノ新築、改築又ハ増築

六 工所用假工作物（宿舎ヲ除ク）ノ新築、改築又
ハ増築

七 宅地内ニ於ケル土石ノ採掘

八 地貌ノ變化ヲ來サザル土石ノ採掘

九 宅地内ニ於ケル木竹ノ伐採

十 自家用ノ爲ニスル木竹ノ擇伐（塊狀擇伐ヲ除ク）

十一 桑、茶、楮、三椏、杞柳、桐、果樹其ノ他農
業用栽培木竹ノ伐採

十二 枯損木竹又ハ危險木竹ノ伐採

十三 森林保育ノ爲ニスル刈、蔓切又ハ間伐

十四 牧野改良ノ爲ニスル荆棘、灌木等ノ除去

一 土地ノ掘鑿、切取、盛土等土地ノ形質ノ變更ニ
シテ地貌ノ變化ヲ來サザルモノ

二 宅地内ニ於ケル木竹ノ植栽

三 農業用栽培木竹ノ植栽

四 現存木竹ト同一種類ノ木竹ノ植栽

五 施業計畫ヲ豫メ内務大臣ニ届出タルトキハ其ノ
施業計畫ニ基ク行爲

六 特別地域指定ノ際既ニ著手セル行爲

第二十一條 國立公園法第八條第一項ノ規定ニ依リ特
別地域ニ指定セラレザル國立公園内ノ地域ハ之ヲ普
通地域トス

普通地域内ニ於テ國立公園法第八條第二項各號ノ一
ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ其ノ行爲ノ日ヨ
リ十四日以前ニ内務大臣ニ届出ツベシ

十五 軒下ニ於ケル廣告物、看板其ノ他之ニ關スル
物件ノ設置

十六 非常災害ノ爲必要ナル應急處置

十七 施業計畫ニ付豫メ内務大臣ノ認可ヲ受ケタル
トキハ其ノ施業計畫ニ基ク行爲

十八 特別地域指定ノ際既ニ著手セル行爲

第十九條 特別地域内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル
行爲ヲ爲サントスル者ハ其ノ行爲ノ日ヨリ十四日以
前ニ内務大臣ニ届出ツベシ

一 開墾其ノ他土地ノ形質ノ變更

二 木竹ノ植栽

三 家畜ノ放牧

第二十條 左ニ掲グル行爲ハ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ
爲スコトヲ要セズ

第二十一條ノ二

普通地域内ト雖モ内務大臣ノ指定スル地區内ニ於テハ左ニ掲グル行爲ヲ除クノ外前條第二項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要セズ

一 左ノ工作物ノ新築、改築又ハ増築

(イ)常時三十人以上ノ職工ヲ使用シ又ハ常時使用スル原動機馬力數ノ合計五ヲ超過スル工場

(ロ)悪臭ヲ發散シ、有害物(動植物ニ對シ有害ナルモノヲ含ム)ヲ排泄シ又ハ危險物ヲ取扱フ工場、倉庫其ノ他ノモノ

(ハ)水力發電所又ハ出力百五十キロワットアンペア以上ヲ有スル發電所

(ニ)道路、橋梁、鐵道、軌道、索道其ノ他ノ交通運輸施設

二 水面ノ埋立又ハ干拓

三 鑛物ノ試掘若ハ採掘又ハ石材ノ採掘

四 廣告物其ノ他之ニ關スル物件ノ設置

第二十二條

左ニ掲グル行爲ハ第二十一條第二項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要セズ

一 第十八條第一號乃至第十六號各號ノ一ニ該當スル行爲

二 施業計畫ヲ豫メ内務大臣ニ届出タルトキハ其ノ施業計畫ニ基ク行爲

三 國立公園指定ノ際既ニ著手セル行爲

第二十三條

第十九條又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ依ル届出書ニハ設計書又ハ施行方法書ヲ添附スベシ

第十七條第二項ノ規定ハ前項ノ設計書又ハ施行方法書ニ之ヲ準用ス

第一項ノ設計書又ハ施行方法書ニ記載セル事項ヲ變

更セントスルトキハ其ノ行爲ノ日ヨリ十四日以前ニ内務大臣ニ届出ヅベシ

第二十四條

國立公園法第十一條第一項ノ行爲ヲ爲ス者ハ地方長官ノ許可證、同條同項但書ノ行爲ヲ爲ス

當該吏員ハ其ノ證票ヲ携帯シ關係者ノ請求アリタルトキハ之ヲ示スベシ

第二十五條

國立公園法第十一條第四項ノ規定ニ依ル裁定ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書(正副二通)ヲ地方長官ニ提出スベシ

一 申請人及相手方ノ氏名、住所又ハ名稱、所在地

二 請求ノ内容及理由

地方長官申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ其ノ指定スル期間内ニ答辯書ヲ差出サシムベシ

指定ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サザルトキハ地方長官

ハ申請書ノミニ依リテ裁定ヲ爲スコトヲ得副本ノ送付ヲ爲スコト能ハザルトキ亦同ジ

第二十六條

裁定書ニハ理由ヲ附シ地方長官之ヲ當事者雙方ニ送付スベシ

裁定書ノ送付ヲ爲スコト能ハザルトキハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スベシ

前項ノ告示アリタル後七日ヲ經過シタルトキハ裁定書ノ送付アリタルモノト看做ス

第二十七條

國立公園法、國立公園法施行令又ハ本則ノ規定ニ依リ内務大臣ニ提出スル書類ハ地方長官ヲ

經由スベシ但シ二府縣以上ニ關スル事項ニ付テハ關係地方長官ノ一ヲ經由シ別ニ其ノ副本ヲ他ノ關係地方長官ニ提出スベシ

附則

本則ハ國立公園法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

史蹟名勝天然紀念物保存法

大正八年四月十日
法律第四十四號

第一條 本法ヲ適用スヘキ史蹟名勝天然紀念物ハ内務大臣之ヲ指定ス

前項ノ指定以前ニ於テ必要アルトキハ地方長官ハ假ニ之ヲ指定スルコトヲ得

第二條 史蹟名勝天然紀念物ノ調査ニ關シ必要アルトキハ指定ノ前後ヲ問ハス當該吏員ハ其ノ土地又ハ隣接地ニ立入り土地ノ發掘障碍物ノ撤去其ノ他調査ニ必要ナル行爲ヲ爲スコトヲ得

第三條 史蹟名勝天然紀念物ニ關シ其ノ現狀ヲ變更シ又ハ其ノ保存ニ影響ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 内務大臣ハ史蹟名勝天然紀念物ノ保存ニ關シ地域ヲ定メテ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限シ又ハ必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令若ハ處分又ハ第二條ノ規定ニ依ル行爲ノ爲損害ヲ被リタル私人ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

第五條 内務大臣ハ地方公共團體ヲ指定シテ史蹟名勝天然紀念物ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ得
前項ノ管理ニ要スル費用ハ當該公共團體ノ負擔トス
國庫ハ前項ノ費用ニ對シ其ノ一部ヲ補助スルコトヲ得

第六條 第三條ノ規定ニ違反シ又ハ第四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ六月以下ノ禁錮若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

附則

本法施行ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正八年勅令第二百六十一號）
（ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

古社寺保存法第十九條ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

大正九年六月二十一日
内務省告示第五十一號

史蹟名勝天然紀念物保存法第一條第一項ノ規定ニ依ル史蹟名勝天然紀念物ノ指定ハ左ノ二類ニ別チ之ヲ行フ
第一類 國家的ノモノ

第二類 地方的ノモノ

史蹟名勝天然紀念物保存
法施行令

大正八年十二月二十九日
勅令第四百九十九號

（正改）大正一三年第二八五號、昭和三年第二六九號
六年第二四〇號

第一條 當該吏員史蹟名勝天然紀念物保存法第二條ノ規定ニ依ル行爲ヲ爲サムトスルトキハ少クトモ三日
前ニ關係土地物件ノ所有者及占有者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

史蹟名勝天然紀念物保存法第二條ノ規定ニ依ル行爲ヲ爲ス當該吏員ハ其ノ證票ヲ携帯シ關係者ノ請求アリタルトキハ之ヲ示スヘシ

日出前又ハ日没後ニ於テハ占有者ノ承諾アルニ非サ
レハ史蹟名勝天然紀念物保存法第二條ノ規定ニ依リ
邸内ニ立入ルコトヲ得ス

第二條 行政廳史蹟名勝天然紀念物保存法第三條ニ規
定スル行爲ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ承認ヲ
受クヘシ

第三條 史蹟名勝天然紀念物保存法第二條ノ規定ニ依
リ古墳ヲ發掘スル場合ニ於テハ當該吏員ハ地方長官
ヲ經由シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
史蹟名勝天然紀念物保存法第三條又ハ前條ノ規定ニ
依リ古墳ヲ發掘セムトスル場合ニ於テ地方長官許可
又ハ承認ヲ與フルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
前二項ノ規定ニ依リ文部大臣認可ヲ爲ス場合ニ於テ
ハ豫メ宮内大臣ニ協議スヘシ

第七條 史蹟名勝天然紀念物ノ管理ノ費用ヲ負擔スル
地方公共團體ハ其ノ管理スル史蹟名勝天然紀念物ニ
付觀覽料ヲ徵收スルコトヲ得

附則

本令ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

史蹟名勝天然紀念物保存法 施行規則

大正八年十二月二十九日
內務省令第二十七號

(改正) 昭和三年文部省令第一七號

第一條 文部大臣史蹟名勝天然紀念物ノ指定ヲ爲シ又
ハ其ノ指定ヲ解除シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示
ス地方長官假指定ヲ爲シ又ハ其ノ假指定ヲ解除シタ

第四條 史蹟名勝天然紀念物保存法第四條第二項ノ規
定ニ依ル補償ハ通常生スヘキ損害ニ限り之ヲ爲ス
前項ノ補償ノ額ハ地方長官ト損害ヲ被リタル私人ト
ノ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ文部大臣
鑑定人ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定スヘシ
前項ノ規定ニ依ル決定ニ不服アル者ハ文部大臣ニ訴
願スルコトヲ得

第五條 史蹟名勝天然紀念物ニシテ國有地ニ屬スルモ
ノハ文部大臣之ヲ管理ス但シ官用地又ハ國有林ニ屬
スルモノニ付テハ主管ノ大臣ト文部大臣ト協議シテ
其ノ管理大臣ヲ定ム

第六條 文部大臣ハ史蹟名勝天然紀念物ニシテ國有ニ
屬スルモノヨリ生スル收益ヲ管理ノ費用ヲ負擔スル
地方公共團體ノ所得ト爲スコトヲ得

ルトキ亦同シ但シ指定セラレタル物ノ保存上必要ト
認メタルトキハ告示セサルコトヲ得

第二條 史蹟名勝天然紀念物保存法第四條第一項ノ禁
止若ハ制限ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示ス
但シ指定セラレタル物ノ保存上必要ト認メタルトキ
ハ告示セサルコトヲ得

第三條 史蹟名勝天然紀念物ノ所有者、管理者又ハ占
有者ニ變更アリタルトキハ十日以内ニ新ナル所有
者、管理者又ハ占有者ヨリ之ヲ地方長官ニ申告スヘ
シ

史蹟名勝天然紀念物ノ所有者、管理者又ハ占有者其
ノ住所氏名ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ之ヲ地方
長官ニ申告スヘシ

第四條 土地ノ所有者、管理者又ハ占有者古墳又ハ舊

一 本籍、住所（朝鮮内ニ住所ヲ有セサル者ニ在リテハ住所ノ外假住所以下同シ）
氏名、職業及生年月日

二 目的、期間、地域及方法

三 捕獲スヘキ野生鳥獸又ハ採取スヘキ野生鳥類ノ
巢、卵若ハ雛ノ名稱及員數

四 第一條乃至第四條ノ規定又ハ第八條ノ二ノ期間
ニ依リ難キ場合ニ於テハ其ノ事由

五 第三條ノ規定ニ依リ難キ事由アル場合ニ於テハ
危害豫防ノ方法

第七條

銃器、網、鵜繩、簇又ハ鷹ヲ使用シテ鳥獸ヲ
捕獲セムトスル者ハ道知事ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ
但シ欄、柵其ノ他ノ圍障アル邸宅地域内ニ於テ銃器
ヲ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
免狀ハ他人ヲシテ之ヲ使用セシムルコトヲ得ス

第七條ノ二 前條ノ銃器、網、鵜繩及簇ノ種類左ノ如
シ

一 銃器 裝藥銃其ノ他瓦斯力ニ因リ彈丸ヲ發射ス
ル銃器及散彈ヲ使用シ得ヘキ空氣銃

二 網 アミ ムソウ、カスミアミ、
ハリアミ、ツキアミ、ナケアミ

三 鵜繩 モチナワ ナガシモチ、ハリモチ、ナワ
流網及張網

四 簇 ハコ タカハゴ、センボン、ハゴ
高簇及干本簇

第八條 免狀ヲ分チテ甲種、乙種及特別ノ三種トス

甲種免狀ハ網、鵜繩、簇又ハ鷹ヲ使用シテ野生鳥獸
ヲ捕獲セムトスル者ニ、乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ
野生鳥獸ヲ捕獲セムトスル者ニ、特別免狀ハ藥用材
料採取ノ爲銃器ヲ使用シテ牡鹿、熊其ノ他一定ノ野
生鳥獸ヲ捕獲セムトスル者ニ之ヲ下付ス

第八條ノ二 甲種及乙種免狀ノ有効期間ハ九月十五日

ヨリ翌年四月末日迄トス但シ虎、豹、熊、熊、山猫、
狼（ヌクテ）、猪及獐以外ノ獸類並雉ノ捕獲ニ在リテ
ハ十一月一日ヨリ翌年二月末日迄、牡鹿ノ捕獲ニ在
リテハ二月一日ヨリ四月末日迄トス
特別免狀ノ有効期間ハ一年トス但シ牡鹿ノ捕獲ニ在
リテハ二月一日ヨリ八月末日迄トス

第八條ノ三

第七條第一項ノ規定ニ依リ免狀ヲ受ケム
トスル者ハ願書ニ左ノ各號ニ掲クル事項ヲ記載シ住
所地（朝鮮内ニ住所ヲ有セルサ者ニ）ヲ管轄スル道知
事ニ之ヲ提出スヘシ

一 本籍、住所、氏名、職業及生年月日

二 免狀ノ種類

三 特別免狀ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ捕獲セム
トスル野生鳥獸ノ名稱

乙種又ハ特別免狀ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ前項
ノ願書ニ寫眞（半身、無臺紙、大サ凡ソ縦二寸横一
寸三分）一葉ヲ添付スヘシ

第八條ノ四 免狀ハ第一號様式ニ依リ許可證ハ第二號
様式ニ依ル

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ免狀ヲ受クルコ
トヲ得ス

一 十七歳未満ノ者

二 白痴者、瘋癲者

三 第十五條第一項第一號乃至第五號又ハ第七號ノ
處罰ヲ受ケ滿一年ヲ經過セサル者

第十條 第八條ニ規定スル免狀ヲ受クル者ハ左ノ免許
手数料ヲ納付スヘシ

甲種免狀 金 七 圓

乙種免狀 金二十圓
特別免狀 金七十圓

第十一條 免狀又ハ許可證ハ出獵ノ際之ヲ携帯スヘシ
警察官吏又ハ森林官吏ハ免狀若ハ許可證、捕獲シタル野生鳥獸又ハ採取シタル野生鳥類ノ巢、卵若ハ雛ヲ検査スルコトヲ得

第十一條ノ二 免狀又ハ許可證ヲ受ケタル者住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ其ノ旨道知事ニ届出テ住所又ハ氏名ノ書換ヲ請求スヘシ
前項ノ場合ニ於テ新住所地方他ノ道知事ノ管轄ニ屬スルトキハ十日以内ニ免狀ノ種類、免狀又ハ許可證ノ番號及之ヲ下付シタル道知事名並本籍、住所、氏名、職業及生年月日ヲ其ノ地ヲ管轄スル道知事ニ届出テ前項ノ書換ヲ請求スヘシ

第十四條 野生鳥類又ハ其ノ剝製品若ハ羽毛ノ輸出又ハ移出ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ道知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條ノ二 本令ニ違反シテ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ巢、卵若ハ雛ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第十四條ノ三 道知事ニ提出スヘキ書類ハ住所地ヲ管轄スル警察署ヲ經由スヘシ

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第三號ノ場合ニ在リテハ告訴ヲ待ツテ之ヲ處斷ス

一 第一條、第二條第二項、第三條、第四條、第八條ノ二第二項及第二項但書ニ違反シタル者

二 第二條第一項ノ禁止區域ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シタ

第十一條ノ三 免狀又ハ許可證ヲ受ケタル者之ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク之ヲ下付シタル道知事ニ届出ツヘシ

第十二條 免狀又ハ許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ之ヲ下付シタル道知事ニ其ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ免狀ノ再下付ヲ受ケムトスル者ハ手数料金一圓ヲ納付スヘシ

第十三條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

第十三條ノ二 免狀及許可證カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日以内ニ之ヲ下付シタル道知事ニ返納スヘシ
前項ノ規定ニ依リ許可證ヲ返納スル場合ニ於テハ捕獲シタル野生鳥獸又ハ採取シタル野生鳥類ノ巢、卵若ハ雛ノ種類及員數ヲ届出ツヘシ

ル者

三 第五條ニ違反シタル者

四 免狀又ハ許可證ヲ有セスシテ銃器、網、鵜繩、筈又ハ鷹ヲ使用シテ鳥獸ヲ捕獲シタル者

五 不實ノ申告ヲ爲シテ免狀又ハ許可證ヲ受ケタル者

六 第十四條ニ違反シタル者

七 第十四條ノ二ニ違反シタル者

前項第一號乃至第五號又ハ第七號ノ所爲ハ未遂罪ヲ罰ス

第一項第一號乃至第五號又ハ第七號ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀又ハ許可證ハ其ノ效力ヲ失フ

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一 第六條第三項、第七條第二項、第十一條第一

項、第十一條ノ二又ハ第十三條ノ二第一項ニ違
反シタル者
二 第十一條第二項ノ検査ヲ拒ミタル者
三 第十一條ノ三又ハ第十三條ノ二第二項ノ届出ヲ
爲ササル者又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者

附 則 (昭和二年朝鮮總督府令第八十四號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年警務總監部令第十號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ效力ヲ有スル許可證又ハ免狀ハ本令
ニ依リ之ヲ下付シタルモノト看做ス

第一號様式 (用紙厚紙二折)

甲種 赤色紙
乙種 青色紙
特別 白色紙
表面輪廓ヲ唐草模様トス
甲種及乙種免狀ノ表面ニハ「捕獲セムトスル野
生鳥獸名」ノ欄ヲ除ク

表 印		甲種 狩獵免狀					捕獲セントスル 野生鳥獸名	
期有	生年月日	氏名	職業	住所	本籍	番	號	
至昭和	年月日							
年月日								

分五寸二

三寸五分

裏

昭和 年 月 日

「何」

道 印

注意事項

一 捕獲シ得ヘキ鳥獸
鳩、鶉、黄道眉、千鳥、尾長鳥、鶯、雁、虎、鴉、紫鴉、冠筑、鴉、鶉、檀鳥、鶉、黑鶉

内

ヲ除ク、鶉、鶯、鋸嘴鴨、秧雞、花雞、嵩雀、雉、鴉、蠟嘴、鶉、鴉、雀、鴉、猪、豹、虎、栗鼠、狼、(ヲ含ム)、牡鹿、羚羊、カワラツタヌキ、ウサギ、ノロクマ、ヤマネコ、テシ、(黒貂ヲ除ク)、アナグマ、キツネ、ヒグマ、獾、狐、熊

野生鳥類ノ巢、卵又ハ雛ハ之ヲ採取セサルコト

二 左ノ場所ニ於テハ鳥獸ヲ捕獲セサルコト

一 公園

二 社寺、陵、園、廟又ハ祠ノ境内

三 公道

三 日出前、日没後又ハ市街地其ノ他人家稠密

面

ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル人畜、建物、汽車、電車若ハ艦船ニ向テ銃獵ヲ爲ササルコト

四 虎、豹、熊、羆、山猫、狼(ヌクテ)、猪及獐以外ノ獸類並雉ノ捕獲ハ十一月一日ヨリ翌年二月末日迄、牡鹿ノ捕獲ハ二月一日ヨリ四月末日迄トス

五 免狀ハ出獵ノ際之ヲ携帯スルコト

六 警察官吏又ハ森林官吏ハ免狀及捕獲シタル野生鳥獸ヲ検査シ得ルモノトス

七 住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキ八十日以内ニ其ノ旨ヲ道知事ニ届出テ免狀ノ書換ヲ請求スルコト

住所ヲ他ノ道ニ變更シタルトキ八十日以内ニ

免狀ノ種類、番號及之ヲ下付シタル道知事名並本籍、住所、氏名、職業及生年月日ヲ其ノ他ヲ管轄スル道知事ニ届出テ免狀ノ書換ヲ請求スルコト

八 免狀ヲ亡失シタルトキ其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク道知事ニ届出ツルコト

九 免狀カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ八十日以内ニ之ヲ下付シタル道知事ニ返納スルコト

十 道知事ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スルコト

一寸三分

寫真欄

道印

第二號様式 (用紙白色厚紙二折)

裏面		表面						
昭和 年 月 日		狩獵許可證						
		番號	本籍	住所	氏名	生年月日	職業	目的地域
[何]		三寸五分						
		道印						

二寸五分

鳥獸等ノ種類數	有效期間	許可條件	注意
	自昭和 年 月 日至昭和 年 月 日		一 許可證ハ出獵ノ際之ヲ携帯スルコト
			二 警察官吏又ハ森林官吏ハ許可證、捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ巢、卵若ハ雛ヲ検査シ得ルモノトス
			三 住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキ八十日以内ニ其ノ旨ヲ道知事ニ届出テ許可證ノ書換ヲ請求スルコト

朝鮮狩獵規則取扱手續

昭和二年九月六日
朝鮮總督府訓令第二十三號

- 第一條 狩獵規則(以下單ニ規
則ト稱ス)第六條ノ規定ニ依ル許
可ノ有效期間ハ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外一般
狩獵期間ニ互ラサル範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 第二條 道知事ハ學術研究ノ爲既ニ他ノ道ニ於テ規則
第六條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ特
別ノ事由アル場合ヲ除クノ外學術研究ノ爲同一期間
内ニ於ケル同一種類ノ野生鳥獸ノ捕獲又ハ野生鳥類
ノ巢、卵若ハ雛ノ採取ノ許可ヲ爲スヘカラス
- 第三條 道知事ハ學術研究ノ爲許可證ヲ下付シタルト
キハ第一號樣式狩獵許可證下付臺帳ニ記載スヘキ事

事	項
住所ヲ他ノ道ニ變更シタルトキ ハ十日以内ニ許可證ノ番號及之 ヲ下付シタル道知事名並本籍、 住所、氏名、職業及生年月日ヲ 其ノ地ヲ管轄スル道知事ニ届出 テ許可證ノ書換ヲ請求スルコト 許可證ヲ亡失シタルトキハ其ノ 事由ヲ具シテ遲滞ナク道知事ニ 届出ツルコト	四
許可證カ其ノ效力ヲ失ヒタルト キハ十日以内ニ之ヲ下付シタル 道知事ニ返納スルコト	五
許可證返納ノ際ハ捕獲又ハ採取 シタル鳥獸等ノ種類、員數ヲ届 出ツルコト	六
道知事ニ提出スヘキ書類ハ所轄 警察署ヲ經由スルコト	七

(返納年月
日ヲ除ク)項其ノ他必要ナル事項ヲ其ノ都度他ノ道
知事ニ通報スヘシ

第四條 甲種及乙種免狀ニ關スル事項並特別免狀及許
可證ニ關スル規則第十一條ノ二ニ規定スル事項ハ警
察署長ニ於テ之ヲ專行スヘシ

第五條 甲種又ハ乙種免狀ノ番號ハ警察署別トシ之ニ
警察署名ノ頭及警ノ字ヲ、道内ニ同一頭字ノ警察署
アルトキハ其ノ署ヲ表示スル文字及警ノ字(平昌警
署ハ「平昌警」、平康警察署ハ「平康警」トスルカ如シ)ヲ冠スヘシ

第六條 警察署長ハ規則第十一條ノ二ノ規定ニ依リ住
所變更ノ届出アリタル場合ニ於テ警察署ノ管轄ヲ異
ニスルトキハ免狀ノ種類及免狀又ハ許可證ノ番號並
本籍、新住所、氏名、職業、生年月日其ノ他必要ナ
ル事項ヲ其ノ都度免狀若ハ許可證ヲ下付シタル道知

事又ハ之ニ關スル事項ヲ專行シタル警察署長ニ報告
又ハ通報スヘシ

第七條 道ニハ第一號樣式、第二號樣式及第四號樣式
ノ、警察署ニハ第三號樣式及第四號樣式ノ帳簿ヲ備
フヘシ

第八條 免狀又ハ許可證ノ返納ヲ受ケタルトキハ消印
又ハ抹消ニ依リ失效免狀又ハ失效許可證ナルコトヲ
明ニシ臺帳ニ返納年月日ヲ記入シタル後之ヲ破棄ス
ヘシ

第九條 警察署長ハ第五號樣式ニ依リ六月三十日迄ニ
狩獵免狀受拂及其ノ年度所要概算高ヲ道知事ニ報告
スヘシ

第十條 警察署長ハ甲種及乙種免狀亡失ノ届出ヲ受ケ
タルトキハ其ノ者ノ本籍、住所氏名及生年月日、免

狀ノ種類、番號、下付年月日竝亡失ノ日時及場所ヲ
道知事ニ報告スヘシ

第十一條 道知事ハ前條ノ規定ニ依ル報告又ハ特別免
狀若ハ許可證ノ亡失ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ亡
失ニ付公告スヘシ

第十二條 道知事ハ規則第六條ノ規定ニ依リ地域ヲ定
メ規則第一條乃至第四條及第八條ノ二ノ制限又ハ禁
止ヲ解除セントスルトキハ豫メ其ノ期間及地域、捕
獲又ハ採取ノ方法、捕獲シ得ヘキ野生鳥獸又ハ採取
シ得ヘキ野生鳥類ノ巢、卵若ハ雛ノ種類竝制限又ハ
禁止ヲ解除スヘキ事由ヲ具シ朝鮮總督ノ指揮ヲ受ク
ヘシ

第十三條 本手續ニ於ケル年度ハ其ノ年五月一日ヨリ
翌年四月末日迄トス

第四條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區分ニ依リ免許料ヲ納
ムヘシ

營業ノ爲銃獵ヲ爲ス者 金十圓

其ノ他ノ者 金二十圓

第五條 免狀ノ有効期間ハ毎年九月十五日ヨリ翌年三
月三十一日マテトス

前項ノ期間内ニアラサレハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 保護ヲ必要トスル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁ス

第七條 左ニ掲クル場所ニ於テハ銃獵ヲ爲スコトヲ得
ス

- 一 市街ヲ距ルコト五町以内ノ地
- 二 人家稠密又ハ衆人群集ノ場所
- 三 公園
- 四 公道

臺灣銃獵取締規則

明治三十六年六月二十六日
臺灣總督府令第四十七條

(改正) 明治四〇年第三六號、大正元年第一九號、同 四年第五七號、
同 九年第一二二號、同一四年第五五號

第一條 銃獵ヲ爲サントスル者ハ所轄郡守、支廳長、

警察署長又ハ警察分署長ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ

前項ノ願書ニハ最近ノ撮影ニ係ル本人ノ寫眞(ベス
ト形、半身、無臺紙)一葉ヲ添附スヘシ

第二條 左ニ掲クル者ニハ免狀ヲ附與セス

一 二十歳未滿ノ者

二 白痴、瘋癲者

第三條 第十七條第二項ニ該當スル者ハ滿一箇年ヲ經
過スルニアラサレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

五 社寺、廟境内

六 墓地

七 禁獵ノ制札アル場所

第八條 日出前日没後ハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、汽車ニ向
テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 欄、柵、圍障若ハ作物植付アル他人ノ土地ニ
於テハ業主又ハ占有者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ銃
獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 出獵ノ際ハ免狀ヲ携帯スヘシ若シ當該官吏
ニ於テ免狀ノ検査ヲ爲ストキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 免狀ハ貸借讓與ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 免狀ヲ受ケタル者他管轄内ニ轉住スルトキ
又ハ免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ五日以内ニ

所轄官廳ニ届出ツヘシ
轉住ノ場合ニ於テハ書換、亡失毀損ノ場合ニ於テハ
再下付ヲ請フコトヲ得

第十四條 免狀ハ效力ヲ失ヒタルトキヨリ三十日以内
ニ所轄官廳又ハ支廳ニ返納スヘシ

第十五條 免狀ハ別記様式ニ依ル

第十六條 學術研究其ノ他特別ノ理由アル者ハ何時ニ
テモ知事又ハ廳長ノ許可ヲ得テ保護鳥其ノ他ノ鳥類
ヲ捕獲スルコトヲ得但シ捕獲シタル鳥類ハ之ヲ賣買
スルコトヲ得ス

農作物ニ害ヲ加フル獸類ヲ驅除セントスルトキ其ノ
他特別ノ理由アルトキハ何時ニテモ知事又ハ廳長ノ
許可ヲ得テ獸類ノ捕獲ヲ爲スコトヲ得

第十七條 第一條、第五條第二項、第六條、第七條、

第八條、第九條、第十條及第十六條但書ニ違背シタ
ル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第十條ニ
付テハ業主又ハ占有者ノ告訴ヲ待テ處斷ス

前項第六條、第七條、第八條、第九條ニ違背シ處罰
ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

第十八條 第十二條ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰
金又ハ科料ニ處ス

第十九條 第十一條、第十三條及第十四條ニ違背シタ
ル者ハ科料ニ處ス

第十九條ノ二 本令ノ規定ハ空氣銃ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲
スル者ニ之ヲ準用ス

附則

第二十條 保護鳥ノ種類ハ別ニ告示ス

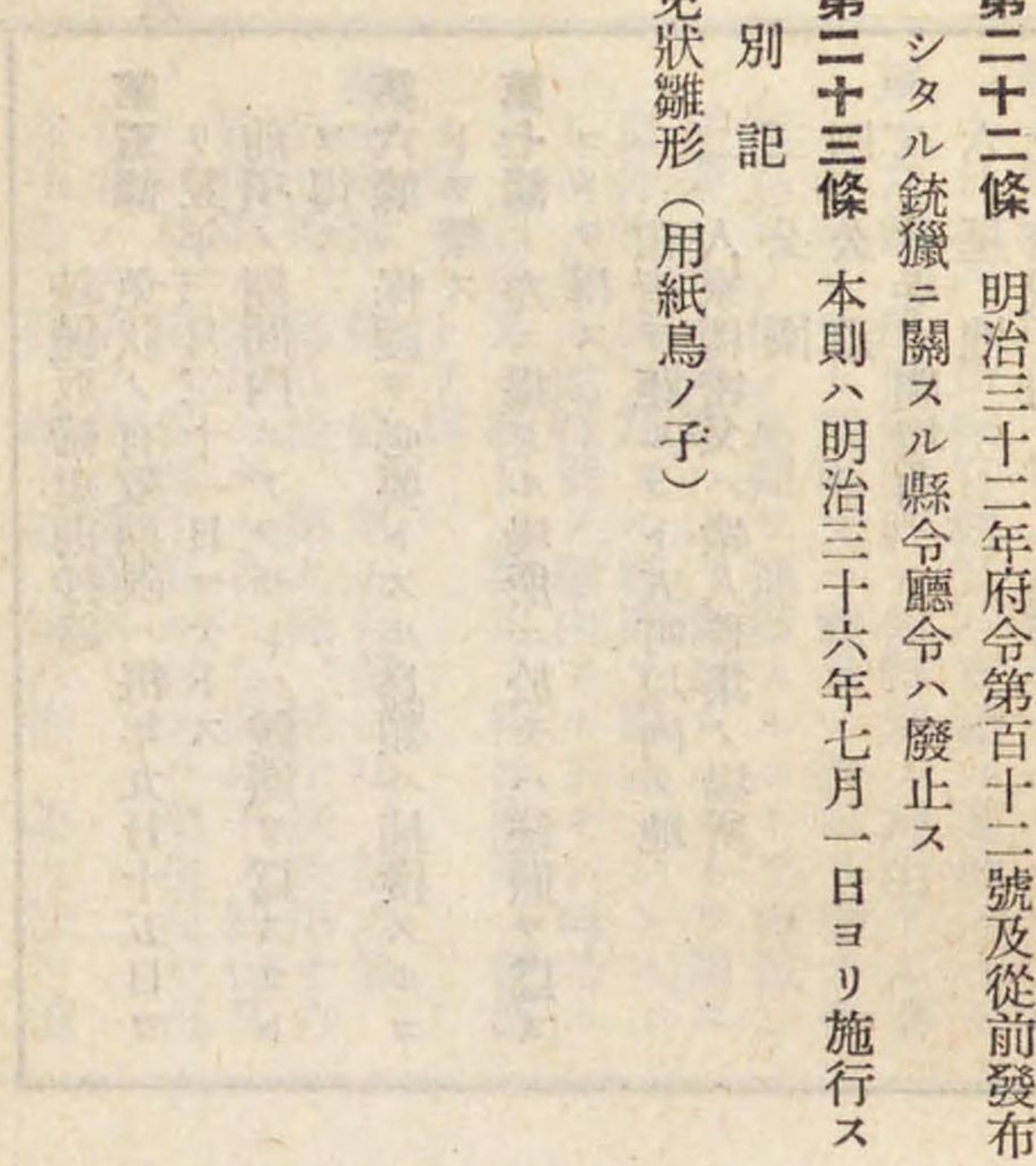
第二十一條 本則第六條ハ各種ノ網其ノ他ノ方法ヲ以

テ之ヲ捕獲スル者ニモ適用ス

第二十二條 明治三十二年府令第百十二號及従前發布
シタル銃獵ニ關スル縣令廳令ハ廢止ス

第二十三條 本則ハ明治三十六年七月一日ヨリ施行ス
別記

免狀雛形 (用紙鳥ノ子)



表

第 號	寫 眞	契	本籍
銃獵免許	住所	職業	氏名
有效期間	年 月 日 生	年 月 日	
自 年 月 日			
至 年 月 日			
年月日下付			
官廳名			

分五寸三橫

豎五寸

銃獵取締規則抄録

第五條

免狀ノ有効期限ハ毎年九月十五日ヨリ翌年三月三十一日マテトス
前項ノ期間内ニアラサレハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第六條

保護ヲ必要トスル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁ス

第七條

左ニ掲クル場所ニ於テハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 市街ヲ距ルコト五町以内ノ地
- 二 人家稠密又ハ衆人群集ノ場所
- 三 公園
- 四 公道
- 五 社寺、廟境内
- 六 墓地
- 七 禁獵ノ制札アル場所

第八條

日出前日没後ハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第九條

銃丸ノ達スヘキ處アル建物、船舶、汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十條

欄、柵、圍障若クハ作物植付アル他人ノ土地ニ於テハ業主又ハ占有者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條

出獵ノ際ハ免狀ヲ携帯スヘシ若シ當該官吏ニ於テ免狀ノ検査ヲ爲ストキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條

免狀ハ貸借讓與ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條

免狀ヲ受ケタル者他管廳内ニ轉住スルトキ又ハ免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ五日以内ニ所轄官廳ニ届出ツヘシ

第十四條

轉住ノ場合ニ於テハ書換、亡失毀損ノ場合ニ於テハ再下付ヲ請フコトヲ得

第十四條

免狀ハ效力ヲ失ヒタルトキヨリ三十日以内ニ所轄官廳又ハ支廳ニ返納スヘシ

第十六條

學術研究其ノ他特別ノ理由アル者ハ何時ニテモ知事又ハ廳長ノ許可ヲ得テ保護鳥其ノ他ノ鳥類ヲ捕獲スルコトヲ得但シ捕獲シタル鳥類ハ之ヲ賣買スルコトヲ得ス

第十七條

農作物ニ害ヲ加フル獸類ヲ驅除セントスルトキノ其ノ他特別ノ理由アルトキハ何時ニテモ知事又ハ廳長ノ許可ヲ得テ獸類ノ捕獲ヲ爲スコトヲ得

第十七條

第一條、第五條第二項、第六條、第七條、第八條、第九條、第十條及第十六條但書ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但第十條ニ付テハ業主又ハ占有者ノ告訴ヲ待テ處斷ス

前項第六條、第七條、第八條、第九條ニ違

背シ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

第十八條

第十二條ニ違背シタルモノハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十九條

第十一條、第十三條及第十四條ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

(以下省略)

臺灣ニ於ケル保護鳥ノ種類及保護期間ノ件

明治三十八年八月十六日
臺灣總督府告示第百一號

明治三十六年六月府令第四十七號銃獵取締規則第二十条ニ依ル保護鳥ノ種類ヲ左ノ通り相定ム

樺太狩獵取締規則

昭和六年四月十五日
樺太廳令第八號

(改正) 昭和八年第四號
第一條 狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ハ之ヲ捕獲スルコトヲ得
ス

狩獵鳥獸ノ種類左ノ如シ

ら、あをさぎ、わし、みさご、うづら、えぞやま
どり、はくてう、かも、あいさ、がん、くひな、
ばん、だいぜん、むなぐろ、ちどり、しぎ、ほと、
つぐみ(とらつぐ)、からす(ほしがら)、かけす、
いすか、ましこ、あと、ひわ、うそ、すずめ、
にふないすずめ、ほほじろ、あをじ、かしらだか
獸類各種但シ銀黒狐、黒狐、貂、麝香鹿、いたち
ヲ除ク

一 左ニ掲クル鳥類ハ四季ヲ通シテ之ヲ保護ス
鶺鴒、三光鳥、白眉(土名)、鳥秋(土名)、鴟、サ
ンシヨクヒ、鶴鴒、雲雀、燕、小啄木、杜鵑、
郭公、筒鳥、梟、鶴、白鷺(袋毛ノ黄色ノモノ
ヲ含ム)

二 左ニ掲クル鳥類ハ毎年二月十五日ヨリ十月三十
一日マテ之ヲ保護ス

鴨、椋鳥、加令(土名)、黃鶯(土名)

三 左ニ掲クル鳥類ハ毎年三月一日ヨリ十月三十一
日マテ之ヲ保護ス
雉、鶺雉、竹雞

樺太廳長官ハ特殊ノ狩獵鳥獸保護蕃殖ノ爲必要ト認
ムルトキハ區域ヲ定メ其ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スル
コトアルヘシ

第二條 左ノ獸類ハ九月一日ヨリ翌年一月十五日迄ノ
期間内ニ非サレハ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

狐(銀黒狐、黒狐ヲ除ク)、獺、馴鹿、えぞいたち

第三條 狩獵鳥類ノ雛及鳥類ノ卵ハ樺太廳長官ノ定ム
ルモノヲ除クノ外之ヲ捕獲又ハ採取スルコトヲ得ス

第四條 第五條ニ定ムル獵具ヲ使用シテ狩獵鳥獸ヲ捕
獲セムトスル者ハ狩獵免許ヲ受クヘシ但シ欄、柵其
ノ他ノ圍障アル邸宅地域内ニ於テ銃器ヲ使用セスシ
テ捕獲スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 狩獵免許ヲ受クヘキ獵具ノ種類左ノ如シ
一 銃器 裝藥銃其ノ他瓦斯力ニ依リ彈丸ヲ發射ス

ル銃器、散彈ヲ使用シ得ヘキ空氣銃及
剗拔銃身ノ空氣銃
二 網 罟、網、其ノ他ノ張網、突網及投網
三 罟 罟、網、其ノ他ノ張網、突網及投網
四 流 罟、網、其ノ他ノ張網、突網及投網
五 鉤 鉤、網、其ノ他ノ張網、突網及投網
六 罟 罟、網、其ノ他ノ張網、突網及投網

第六條 狩獵免許ハ甲乙ノ二種トシ第一號様式ニ依リ
狩獵免許ヲ下付ス

甲種狩獵免許ハ銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テ狩獵ヲ
爲ス者ニ、乙種狩獵免許ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲
ス者ニ之ヲ下付ス

狩獵免許ノ有効期間ハ九月一日ヨリ翌年五月十五日
迄トス

第七條 狩獵免許ヲ受ケムトスル者ハ第二號様式ニ依リ所轄警察署長ニ願出テ狩獵免許狀ノ下付ヲ受クヘシ

印ヲ爲サスシテ差出スヘシ

第八條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シ罰金ニ處セラレタル者ハ一年ヲ經過スルニ非サレハ狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 樺太在住ノ土人ニシテ免許ヲ受クル場合ニ於テハ前條ノ手数料ハ之ヲ免除ス

第九條 未成年者、白痴者又ハ瘋癲者ハ乙種狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

第十二條 樺太廳長官ハ鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲又ハ土地所有者ノ出願其ノ他ノ事由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ一定ノ期間ヲ定メ禁獵區ヲ設クルコトアルヘシ

乙種狩獵免許ヲ受ケタル者白痴者又ハ瘋癲者ト爲リタルトキハ所轄警察署長ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

第十三條 樺太廳長官ハ危險豫防ノ爲其ノ他必要ト認ムルトキハ銃獵禁止區域ヲ設クルコトアルヘシ

第十條 狩獵免許狀ヲ受クル者ハ左ノ手数料ヲ納付スヘシ

第十四條 左ニ掲グル場所ニ於テハ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

一 甲種免許 五圓

二 乙種免許 十五圓

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ第七條ノ願書ニ貼付シ消

一 禁獵區

二 公道

三 公園

四 社寺境内

五 墓地

第十五條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ事由ニ因リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前數條ノ規定ニ拘ラス鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スルコトヲ得

ハ此ノ限ニ在ラス

樺太廳長官前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ許可證ヲ下付ス

第十八條 爆發物、劇藥、毒藥、据銃、陷穽其ノ他危險ナル裝置ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第十六條 前項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第三號様式ニ依リ樺太廳長官ニ願出テ許可證ノ下付ヲ受クヘシ

第十九條 日出前若ハ日没後、市街其ノ他人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所若ハ見易キ標識アル狐舎ヨリ百間以內ノ地域ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ處アル人畜、建物、汽車若ハ艦船ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 第十五條第一項ノ規定ニ依リ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス但シ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタルトキ

第二十條 欄、柵、其ノ他ノ圍障又ハ作物アル土地ニ於テハ占有者ノ承諾ヲ得ルニ非アレハ狩獵又ハ第十五條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲スコトヲ得ス

採取セムトスルトキハ狩獵免許狀又ハ許可證ヲ携帯スヘシ

第二十一條 狩獵免許ヲ受ケタル者又ハ第十五條第一項ノ許可ヲ受ケタル者鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取セムトスルトキハ狩獵免許狀又ハ許可證ヲ携帯スヘシ

警察官吏又ハ森林官吏ハ前項ノ規定ニ依リ携帯スヘキ狩獵免狀若ハ許可證又ハ捕獲シタル鳥獸若ハ採取シタル鳥類ノ卵ヲ検査スルコトヲ得

第二十二條 本令ニ違反シテ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第二十三條 狩獵免許又ハ第十五條第一項ノ許可ヲ受ケタル者住所若ハ氏名ヲ變更シタルトキハ十四日以内ニ其ノ旨所轄警察署又ハ樺太廳長官ニ届出テ免狀若ハ許可證ノ書換ヲ受クヘシ

第二十四條 狩獵免許又ハ第十五條第一項ノ許可證ヲ受ケタル者之ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ遲滞ナク之ヲ下付シタル官廳ニ届出ツヘシ

第二十五條 狩獵免狀又ハ第十五條第一項ノ許可證ヲ

亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得

狩獵免狀ノ再下付ヲ受ケムトスル者ハ收入印紙ヲ以テ手数料五十錢ヲ納ムヘシ

第二十六條 狩獵免狀又ハ第十五條第一項ノ許可證ノ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ
前項ノ規定ニ依リ狩獵免狀ヲ返納スル場合ニ於テハ其ノ捕獲シタル鳥獸ヲ、許可證ヲ返納スル場合ニ於テハ其ノ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル卵ヲ第四號様式ニ依リ届出ツヘシ
前項ノ規定ハ失効前ノ狩獵免狀又ハ許可證ヲ返納スル場合ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 樺太在住ノ土人ニ限り其ノ願出及届出ハ

口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條第一項、第四條、第十四條、第十八條又ハ第十九條ノ規定ニ違反シタル者

二 詐欺ノ行爲ヲ以テ狩獵免許又ハ第十五條第一項ノ許可ヲ受ケタルモノ

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第二十條ノ規定ニ違反シタル罪ハ占有者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

一 第二條、第三條、第十七條、第二十條又ハ第二十二條ノ規定ニ違反シタル者

二 第一條第二項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者

三 銃獵禁止區域ニ於テ銃獵ヲ爲シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ第二十一條第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミタル者

五 狩獵免狀又ハ第十五條第一項ノ許可證ヲ他人ニ使用セシメタル者

第三十條 第一條乃至第四條、第十四條、第十八條、第十九條又ハ第二十二條ノ規定ニ違反スル犯罪ニ因リテ得タル獵獲物ニシテ犯人ノ所有スルモノハ之ヲ沒收ス但シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトアルヘシ
前項ノ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニシテ犯人ノ所有スルモノハ之ヲ沒收スルコトアルヘシ

第三十一條 禁獵區又ハ銃獵禁止區域ノ標識ヲ移轉、汚損、毀壞又ハ除却シタル者ハ科料ニ處ス

第三十二條 狩獵免許又ハ第十五條第一項ノ許可ヲ受ケタル者本令ニ違反シ罰金ニ處セラレタルトキハ其ノ狩獵免許又ハ許可ハ效力ヲ失フ

第三十三條 第二十一條第一項、第二十三條、第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
樺太狩獵取締規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ效力ヲ有スル免許又ハ許可證ハ本令ニ依リ之ヲ下付シタルモノト看做ス
(免許樣式略ス)

關東州銃獵取締規則

大正元年九月三十日
關東都督府令第七號

(改正) 大正二年第一〇號、同 六年第八號、同 一三年第二六號、
同年第三三號、昭和三年第二二號、昭和九年第七六號

第一條 銃獵ハ所轄警察官署ヲ經由シ關東州廳長官ニ願出テ免許ヲ受クルニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ願出ニハ上半身ノ手札形寫眞二枚ヲ添附スヘシ但シ有害鳥獸驅除ノ爲ニスル銃獵ノ願出ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
未成年者及瘋癲白痴者ハ銃獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

第二條 免許ノ有効期間ハ毎年八月十五日ヨリ翌年五月三十一日迄トス

前項ノ期間内ニ非ラサレハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 免許ヲ受クル者ハ免許料金十五圓ヲ納ムヘシ但シ銃獵ヲ職業トスル者ノ免許料ハ金二圓トス

第四條 銃獵中ハ免許ヲ携帶スヘシ

第五條 免許ハ他人ニ貸與又ハ讓與スルコトヲ得ス

第六條 免許ヲ亡失毀損シ又ハ免許記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ其ノ再下付又ハ書替ヲ請ハムトスルトキハ手數料トシテ金二十錢ヲ納ムヘシ

第七條 免許ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ二十日以内ニ所轄警察署ヲ經由シ關東州廳長官ニ返納スヘシ

第八條 左ニ掲クル場所ニ於テハ銃獵ヲ爲スコトヲ得

ス

- 一 市街地、人家稠密又ハ衆人群集ノ場所
- 二 公園、道路、社寺境内、公設墓地及火葬場
- 三 特ニ指定シタル禁獵ノ場所

第九條 日出前日没後又ハ銃丸ノ達スヘキ處アル人畜、建物、船舶若ハ汽車所在ノ方位ニ向テ發火スルコトヲ得ス

第十條 欄、柵、圍障又ハ作物植付アル他人ノ土地ニ於テハ所有者又ハ占有者ノ承諾ヲ得ルニ非ラサレハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 裝彈シタル銃器ヲ携帶シテ街路ヲ通行シ汽車又ハ公衆乗合ノ船舶等ニ搭乘シ又ハ建物内ニ立入ルコトヲ得ス

第十二條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲銃獵ヲ爲サ

ムトスル者ハ何時ニテモ免狀ノ下付ヲ受クルコトヲ得

裝藥ニ依ラスシテ彈丸ヲ發射スル銃ヲ用ヒ獵ヲ爲ス者ニ付テハ免狀ニ關スル規定ヲ設ケス

第十三條 第一條第一項、第二條第二項、第九條乃至第十一條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ第四條乃至第八條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス但シ第十條ニ付テハ土地所有者又ハ占有者ノ告訴ヲ待テ處斷ス

本令ニ依リ罰金ニ處セラレタル者ノ免狀ハ之ヲ返納セシムルコトアルヘシ免狀ノ返納ヲ命セラレタル者ハ滿一年間ヲ經過スルニ非ラサレハ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

附則

ノ種類、員數及期間ヲ、有害鳥獸驅除ノ爲ニスル銃獵ニハ期間及區域ヲ限定シテ許可スヘシ但シ其ノ期間ハ三週間ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 有害鳥獸驅除ノ銃獵免狀ニハ表面適當ノ位置ニ銃獵シ得ヘキ區域ノ制限ヲ附記スヘシ

第四條 左ニ掲クル者ニハ免狀ヲ下付スヘカラス

- 一 強竊盜、殺傷等ノ前科アリテ改悛ノ情ナキ者
- 二 假出獄又ハ刑ノ執行猶豫中ノ者
- 三 酒癖、暴行其ノ他危險ノ性行アル者

第五條 警察署長ハ免狀下付高一年分ヲ概算シ毎年七月十日迄ニ關東州廳ニ請求スヘシ

第六條 警察署長ハ免狀ヲ亡失シ又ハ毀損シタル旨ノ届出ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク關東州廳ニ報告スヘシ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ關東州外鐵道附屬地ニ之ヲ適用セス

關東州銃獵取締規則施行

手續

昭和三年七月二十三日
訓令第二〇號

(改正) 昭和九年第二七號

第一條 銃獵願ヲ受理シタルトキハ警察署長ハ身元其ノ他ヲ調査シ差支ナシト認ムル者ニ限り關東州廳ノ名ヲ以テ免狀ヲ下付スヘシ

學術研究ノ銃獵免狀ハ別記第一號様式、其ノ他ノ銃獵免狀ハ別記第二號様式ニ依ル

第二條 警察署長ハ學術研究ノ爲ニスル銃獵ニハ鳥獸

前項ノ報告アリタルトキハ關東局局報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告ス

第七條 銃獵者ヨリ返納シタル免狀ハ警察署長ニ於テ之ヲ棄却スヘシ

第八條 警察署長ハ毎年六月三十日迄ニ一獵期(自八月十五日至翌年五月三十一日)中ノ免狀下付高、再下付高、書替高、規則違反者數及銃獵取締ニ關スル狀況ヲ關東州廳警察部長ニ報告スヘシ

銃獵取締規則第十二條ノ規定ニ依ル免狀ノ下付ハ其ノ都度關東州廳警察部長ニ報告スヘシ

第九條 警察署長ハ別記第三號様式ノ銃獵者名簿ヲ備ヘ所要事項ヲ登錄スヘシ

附則

銃獵取締手續ハ之ヲ廢止ス

一 鵝、秧鷄、計里、戴勝、黃鳥 自五月三十一日 至八月三十一日

南洋群島狩獵取締規則

大正六年五月五日 南洋群島民政令第四號

第一條 軍政廳長ハ鳥獸ノ蕃殖保護ノ爲必要アリト認

ムルトキハ其ノ種類、時期又ハ區域ヲ指定シ鳥獸ノ

捕獲及其ノ巢卵雖ノ採取ヲ禁止スルコトヲ得

第二條 爆發物、劇藥、毒藥、据銃、陷穽又ハ危險ナ

ル器ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第三條 柵又ハ圍障アル他人ノ土地ニ於テハ所有者又

ハ占有者ノ承諾アルニアラサレハ鳥獸ヲ捕獲スルコ

トヲ得ス

第四條 銃器ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲セムトスル者ハ所轄軍

政廳ニ願出別記様式ノ銃獵免狀ヲ受クヘシ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ免狀ヲ受クルコ

トヲ得ス

一 未成年者

二 第十五條ノ處罰ヲ受ケ滿一箇年ヲ經過セサル者

三 白痴瘋癲者其ノ他軍政廳ニ於テ銃ノ所持使用ヲ

危險ト認ムル者

第六條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ依リ免許料ヲ納

ムヘシ

營業ノタメ銃獵ヲ爲ス者

金十圓

其ノ他ノ者

金二十圓

第七條 免許ヲ受ケタル者他ノ民政區ニ轉住スルトキ

又ハ免狀ヲ亡失毀損シタルトキハ五日以内ニ所轄軍

政廳ニ之カ届出ヲナスヘシ

前項ニヨリ轉住ノトキハ免狀ノ書換ヲ、亡失毀損ノ

トキハ免狀ノ再下付ヲ請フコトヲ得此ノ場合一件ニ

付手數料金壹圓ヲ納付スヘシ

第八條 免狀ノ有効期間ハ付與シタル日ヨリ滿一箇年

トス

第九條 免狀ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内

ニ所轄軍政廳ニ返納スヘシ

第十條 免狀ハ貸借讓與ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 免狀ハ出獵ノ際之ヲ携帯スヘシ

第十二條 當該官吏ハ何時ニテモ免狀ノ検査ヲ爲スコ

トヲ得此ノ場合狩獵者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 日出前日没後又ハ人家稠密ノ場所、衆人群

集ノ場所若ハ銃丸到達ノ虞アル建物又ハ船舶ニ向ケ

銃獵ヲナスコトヲ得ス

第十四條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲メ其ノ他特

別ノ事由ニ依リ鳥獸ヲ捕獲シ又ハ其ノ巢卵雖ヲ採取

スル必要アルトキハ軍政廳長ハ何時タリトモ特ニ之

カ許可ヲ與フルコトヲ得但シ捕獲シタル鳥獸ハ之ヲ

賣買スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テハ第六條ノ規定ヲ適用セス

第十五條 第一條ノ禁止ヲ犯シタル者及第二條乃至第

四條第十條第十三條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以

下ノ罰金ニ處シ犯罪ニ供シタル器具及捕獲採取物ハ

之ヲ沒收ス但シ第三條ノ場合ニアリテハ所有者又ハ

占有者ノ告訴ヲ待テ之ヲ處斷ス

前項ニ依リ第一條ノ禁止ヲ犯シタル者及第二條第三

條第十條第十三條ノ規定ニ違背シ處罰ヲ受ケタル者

ノ免狀ハ其ノ效力ヲ失フ

第十六條 第七條第九條第十一條第十二條ノ規定ニ違

背シタル者ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第十七條 本規則ハ大正六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 大正四年十月南洋群島民政令第七號南洋群島銃獵取締規則ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十九條 本規則施行前ニ受ケタル銃獵免狀ハ本規則施行後仍其ノ效力ヲ有ス

(免狀様式省略)

南洋群島狩獵取締規則施行細則

行細則

大正六年七月
サイパン軍政令八號

第一條 野生鳥獸ハ左ニ掲クルモノヲ除クノ外之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

一鹿 一豚 一鶏 一鳩 一鳧 一鵝 一鶉 一鴉 一オサ鳥 一サスガ鳥 一ボースン鳥 一鶉 一鶉 一オサ鳥 一サスガ鳥

第二條 野生鳥類ノ巢卵又ハ雛ハ之ヲ採取スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ翡翠ニ之ヲ適用セス

第三條 左ニ掲クル野生鳥類ハ二月一日ヨリ六月三十日マテ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

一鳩 一鳧 一鶉 一鶉 一オサ鳥 一サスガ鳥 一ボースン鳥 一鶉

第四條 野生ノ鹿ハ「ロク」島ニ於テハ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第五條 銃獵免狀ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ銃獵ノ目的及職業氏名住所年齢ヲ記載シ南洋群島狩獵取締規則第十五條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及處罰ヲ受

ケタルコトアルトキハ其ノ年月日ヲ附記スヘシ

第六條 南洋群島狩獵取締規則第十四條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ軍政廳長ニ願出テ別紙様式ノ許可證ヲ受クヘシ

前項ノ許可證ハ鳥獸又ハ其ノ巢卵雛ノ捕獲又ハ採取ニ從事スルトキハ之ヲ携帯スヘシ

第七條 前條ノ許可證ハ許可ノ期間經過後三日以内ニ軍政廳ニ返納スヘシ

第八條 前二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

滿洲帝國鳥獸保護法

康德三年十一月
勅令第六十一號

第一條 狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ハ之ヲ捕獲スルコトヲ得ズ

狩獵鳥獸ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 鳥類ノ卵ハ命令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外之ヲ採取スルコトヲ得ズ狩獵鳥類ニ屬スル雛ノ捕獲ニ付亦同ジ

第三條 狩獵鳥獸ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外狩獵鳥類ニ在リテハ五月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル間、狩獵獸類ニ在リテハ四月一日ヨリ十月三十一日ニ至ル間之ヲ捕獲スルコトヲ得ズ

第四條 主管部大臣特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ其ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第五條 主管部大臣、省長又ハ警察總監狩獵鳥獸ノ保

護蕃殖ノ爲又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ必要ト認ムルトキハ十年以内ノ期間ヲ定メ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第六條 爆發物、劇藥、毒藥、劇物、毒物、据銃、電氣又ハ危險ナル器若クハ陷穽ヲ使用シテ狩獵鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ズ

第七條 省長又ハ警察總監狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ必要ト認ムルトキハ主管部大臣ノ認可ヲ受ケ特定ノ捕獲ノ方法ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第八條 日出前及日没後ハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ズ
市街其ノ他人家稠密ノ場所若クハ衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スベキ虞アル人畜、建物、汽車、電車若クハ艦船ニ向ツテ銃獵ヲ爲スコトヲ得ズ

第九條 省長又ハ警察總監危險豫防ノ爲又ハ其ノ他ノ

事由ニ因リ必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ銃獵ヲ禁止スルコトヲ得

第十條 左ニ掲グル場所ニ於テハ狩獵鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ズ

- 一 禁獵區
- 二 公道
- 三 公園
- 四 廟宇、社寺境内
- 五 墓地

第十一條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ事由ニ因リ主管部大臣、省長又ハ警察總監ノ許可ヲ受タケル場合ニ於テハ第八條ヲ除ク前數條ノ規定ニ拘ラズ鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スルコトヲ得

主管部大臣、省長又ハ警察總監前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ許可證ヲ下付ス

第十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ズ但シ警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 國、特別市、市、縣又ハ旗ハ命令ノ定ムル所ニ依リ獵區ヲ設定スルコトヲ得

第十四條 獵區ニ於テハ獵區設定者ノ承認ヲ得ルニ非ザレハ鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スルコトヲ得ズ

第十五條 警察官吏又ハ森林官吏ハ捕獲又ハ採取シタル鳥獸又ハ鳥類ノ卵ヲ検査スルコトヲ得

第十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ

テ捕獲又ハ採取シタル鳥獸又ハ鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ズ

第十七條 主管部大臣必要ト認ムルトキハ種類ヲ定メ鳥獸又ハ其ノ肉骨皮毛類ノ輸出又ハ輸入ヲ禁止若クハ制限スルコトヲ得

第十八條 鳥獸又ハ其ノ肉骨皮毛類ノ輸出又ハ輸入ノ營業ヲ爲ス者ハ其ノ旨省長又ハ警察總監ニ届出ヅベシ其ノ營業ヲ廢止シタルトキ亦同ジ

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第一條、第二條、第三條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者
- 二 第四條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條又ハ第十條ノ規定ニ違反シタル者

二 第七條又ハ第九條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者

三 第十五條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ阻障シタル者

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十二條、第十四條、第十六條又ハ第十八條ノ規定ニ違反シタル者

二 第十一條第二項ノ許可證ヲ他人ニ使用セシメタル者

第二十二條 禁獵區及獵區ノ標識ヲ移轉、汚損、毀壞

又ハ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第六條ノ規定ニ違反シ犯罪ノ用ニ供シタル物件及本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ捕獲又ハ採取シタル鳥獸又ハ鳥類ノ卵ニシテ犯人ノ所有又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

滿洲帝國鳥獸保護法施行

規則

康德三年十二月

(改正) 康德四年七月産業部令第五號、實業部令第二十九號、民政部令第三十九號、蒙政部令第十六號

第一條 狩獵鳥獸ノ種類左ノ如シ

鶉(ウ)、五位鶯(ゴキサギ)、蒼鶯(アヲサギ)、鶯(ワ

シ)、鷹(タカ)、隼(ハヤブサ)、鴟(ミサゴ)、雉(キ

ジ)、沙鷄(サケイ)、半翅(ヤマウツラ)、鶉(ウツ

ラ)、鶉(シヤコ)、雷鳥(ライテウ)、野鴨(カモ)、

鶉(ハクテウ)、雁(ガン)、秧鷄(クヒナ)、鶉(バン)、

鶉(チドリ)、鶉(シギ)、鶉(ノガン)、鳩(ハト)、

魚狗(カハセミ)、鶉(ツグミ)、烏鴉(カラス)、

松鴉(カケス)、鶉(カササギ)、老西兒(シメ)、蠟嘴

雀(イカル)、交喙(イスカ)、花鷄(アトリ)、金翅雀

(ヒワ)、金翅兒(カハラヒワ)、雀(スズメ)、花眉子

(カシラダカ)、黃道眉(ホホジロ)、紫背兒(ノジコ)、

獸類各種但シ獺(カハウソ)、黑貂(クロテン)及牝鹿

(牝シカ)ヲ除ク
第二條 左ノ鳥類ノ雛及卵ハ之ヲ捕獲又ハ採取スルコトヲ得

雀(スズメ)、烏鴉(カラス)

第三條 左ノ鳥獸ハ一年ヲ通ジ之ヲ捕獲スルコトヲ得

雀(スズメ)、烏鴉(カラス)、野豬(キノシシ)、狼(オ

ホカミ)、鼠(ネズミ)、兔(ウサギ)、獐(ノロ)

左ノ鳥類ハ九月一日ヨリ翌年五月三十一日ニ至ル間

ニ限り之ヲ捕獲スルコトヲ得

鶉(シギ)

左ノ獸類ハ八月一日ヨリ九月三十日ニ至ル間ニ限り

之ヲ捕獲スルコトヲ得

早獺(タルバカン)

左ノ獸類ハ四月一日ヨリ六月三十日ニ至ル間ニ限り

之ヲ捕獲スルコトヲ得
牝鹿(牝シカ)

第四條 産業部大臣鳥獸保護法第四條ノ規定ニ依リ鳥

獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限シタルトキハ鳥獸ノ名稱、

禁止又ハ制限ノ期間及區域ヲ佈告スベシ

第五條 省長又ハ警察總監鳥獸保護法第七條ノ規定ニ依リ鳥獸捕獲ノ方法ニ關シ禁止又ハ制限シタルトキハ其ノ方法、期間及區域ヲ佈告スベシ

第六條 禁獵區ハ其ノ區域内ニ國有地ヲ包含スルトキ又ハ其ノ區域省若ハ特別市ノ二以上ニ涉ルトキハ産業部大臣、其ノ他ノ場合ニ在リテハ省長又ハ警察總監之ヲ設ク

産業部大臣必要ト認ムルトキハ前項後段ノ場合ニ於テモ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第七條 産業部大臣、省長又ハ警察總監禁獵區ヲ設ケタルトキハ其ノ區域及存續期間ヲ佈告スヘシ禁獵區ヲ廢止シ又ハ其ノ區域若ハ存續期間ヲ變更シタルト

キ亦同シ

第八條 産業部大臣、省長又ハ警察總監ハ禁獵區ヲ表示スル爲其ノ周圍ノ隅角及見易キ場所ニ適當ノ間隔ヲ以テ標柱ヲ設クベシ但シ土地ノ狀況ニ依リテハ制札ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第九條 省長又ハ警察總監鳥獸保護法第九條ノ規定ニ依リ銃獵ヲ禁止シタルトキハ其ノ區域内適當ノ場所ニ制札ヲ設クベシ

第十條 鳥獸保護法第十一條第一項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ有害鳥獸驅除又ハ飼養ヲ目的トスル場合ニ在リテハ省長又ハ警察總監ニ其ノ他ノ場合ニ在リテハ産業部大臣ニ出願シ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受クベシ

前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

應ニ届出ヅベシ

第十三條 鳥獸捕獲許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得

第十四條 鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日内ニ之ヲ下付シタル官廳ニ返納スベシ

前項ノ規定ニ依リ鳥獸捕獲許可證ヲ返納スル場合ニ於テハ其ノ捕獲シタル鳥獸又ハ鳥類ノ雛若ハ採取シタル鳥類ノ卵ノ種類、員數及其ノ處置ヲ届出ヅベシ

第十五條 獵區ノ存續期間ハ二十年内トス
前項ノ期間ハ産業部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ更新スルコトヲ得

第十六條 獵區設定者ハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外鳥獸保護法第十一條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ニ

一 出願者ノ職業、氏名、住所及生年月日

二 捕獲又ハ採取ノ目的、期間、區域及方法並學術研究ヲ目的ト爲スモノニ在リテハ研究ノ事項及方法

三 捕獲スベキ鳥獸又ハ鳥類ノ雛若ハ採取スベキ卵ノ種類及員數

鳥獸保護法第十條ニ掲グル場所又ハ獵區内ニ於テ鳥獸又ハ鳥類ノ雛ヲ捕獲シ若ハ鳥類ノ卵ヲ採取セントスル場合ニ於テハ前項ノ外其ノ旨ヲ記載スベシ

第十一條 鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者鳥獸又ハ鳥類ノ雛ヲ捕獲シ若ハ鳥類ノ卵ヲ採取セントスルトキハ許可證ヲ携帯スベシ

第十二條 鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者之ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ之ヲ下付シタル官

對シ鳥獸保護法第十四條ノ規定ニ依ル承認ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十七條 獵區設定者鳥獸保護法第十四條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲シタルトキハ承認證ヲ交付スベシ

第十八條 獵區設定者ハ鳥獸保護法第十四條ノ規定ニ依ル承認ヲ受クル者ヲシテ承認料ヲ納付セシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ鳥獸保護法第十一條第一項ノ許可ヲ受ケ學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲鳥獸又ハ鳥類ノ雛ヲ捕獲シ若ハ鳥類ノ卵ヲ採取スル者ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第十九條 獵區内ニ於テ鳥獸保護法第十一條第一項ノ規定ニ依リ鳥獸又ハ鳥類ノ雛ヲ捕獲シ若ハ鳥類ノ卵ヲ採取セントスルトキハ第十七條ノ承認證ヲ携帯ス

六 獵區設定ニ要スル費用及一年當收支概算
前項ノ書面ニハ獵區ノ區域及位置ヲ示ス圖面ヲ添付スベシ

獵區設定者第一項第三號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出シ産業部大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條 獵區規程ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 事務所ノ位置
- 二 獵區ノ區域
- 三 鳥獸保護蕃殖ノ方法
- 四 獵區管理ノ方法
- 五 第二十條ノ規定ニ依ル制限
- 六 入獵者ノ決定及入獵承認通知方法
- 七 承認料及其ノ納付方法

ベシ

第二十條 獵區設定者ハ狩獵日、狩獵者ノ員數又ハ狩獵者ニ對シ其ノ狩獵シ得ベキ鳥獸ノ種類及員數、獵具、獵法其ノ他狩獵ニ關スル制限ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 獵區ヲ設定セントスル者ハ獵區規程ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出シ産業部大臣ノ認可ヲ受クベシ

- 一 獵區ノ名稱
- 二 獵區ト爲サントスル土地ノ地目別面積、水面ノ面積
- 三 獵區ノ存續期間
- 四 鳥獸ノ棲息及蕃殖狀況
- 五 獵區内ニ棲息スル鳥獸ニ因ル損害ノ補償ニ關スル事項

八 獵區規程違反者ニ對スル處置

獵區設定者前項第二號乃至第八號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出シ産業部大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十三條 第十五條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請セントスルトキハ申請書ニ更新ノ期間ヲ記載シ期間滿了ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ産業部大臣ニ差出スベシ

第二十四條 獵區ノ名稱又ハ事務所ノ位置ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ産業部大臣ニ届出ヅベシ

第二十五條 産業部大臣獵區ノ設定又ハ其ノ存續期間ノ更新ヲ認可シタルトキハ左ノ事項ヲ佈告スベシ
一 獵區及獵區設定者ノ名稱
二 事務所ノ位置

三 獵區ノ區域

四 獵區ノ存續期間

五 承認料

六 狩獵ニ關スル制限

第二十六條 獵區設定者ハ其ノ獵區ニ管理者又ハ巡守ヲ置クコトヲ得

第二十七條 獵區管理者又ハ巡守ハ何時ニテモ獵區内ニ於テ鳥獸又ハ鳥類ノ雛ヲ捕獲シ若ハ鳥類ノ卵ヲ採取スル者ニ對シ第十七條ノ承認證ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第二十八條 獵區設定者ハ獵區ノ區域ヲ表示スル爲必
要ナル標識ヲ設クベシ

第二十九條 獵區設定者ハ毎年五月三十一日迄ニ前年五月一日ヨリ其ノ年四月三十日迄ノ間ニ於ケル獵區

成績ヲ産業部大臣ニ報告スベシ

第三十條 獵區設定者ハ産業部大臣ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間狩獵ノ停止ヲ爲スコトヲ得

前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ産業部大臣ハ其ノ旨ヲ
佈告スベシ

第三十一條 獵區設定者獵區ヲ廢止セントスルトキハ廢止ノ日ヨリ三十日前ニ其ノ事由ヲ具シ産業部大臣ニ届出ヅベシ

前項ノ届出アリタルトキハ産業部大臣ハ其ノ旨ヲ佈告スベシ

第三十二條 産業部大臣必要ト認ムルトキハ獵區設定者ニ對シ獵區ノ廢止ヲ命シ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

産業部大臣獵區ノ廢止ヲ命シ又ハ狩獵ノ停止ヲ命シ

附則

本則ハ鳥獸保護法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

タルトキハ其ノ旨ヲ佈告スベシ

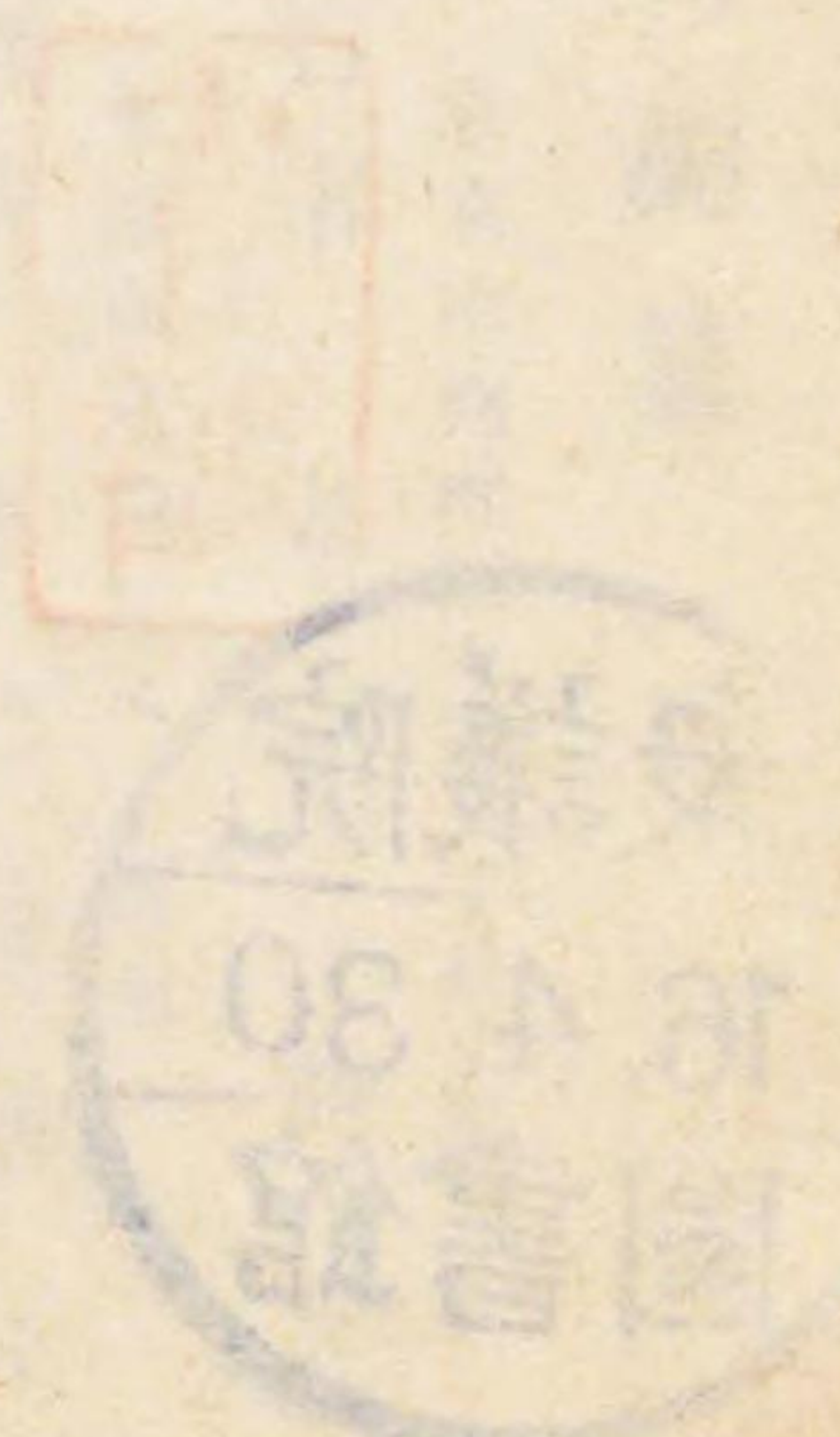
第三十三條 産業部大臣鳥獸保護法第十七條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ヲ爲サントスルトキハ其ノ二月前其ノ旨ヲ佈告スベシ

第三十四條 鳥獸保護法第十八條ノ規定ニ依ル營業ノ届出書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 住所、姓名、名稱及生年月日
- 二 商號
- 三 營業ノ場所
- 四 主ナル取扱物

第三十五條 第十二條又ハ第十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 本則ニ依リ産業部大臣ニ差出スベキ書類ハ省長又ハ警察總監ヲ經由スベシ



8970

1

二部124 A

昭和十五年七月三十日 印刷
昭和十五年八月八日 發行

農林省山林局編纂

(定價三十五錢)

發行者 及川勝義
東京市麴町區九段三丁目二番五

印刷所 不二印刷社
東京市京橋區八丁堀四ノ五

發行所 大日本獵友會
東京市麴町區九段三丁目二番五
社團 法人

電話九段(33)二〇四五番
振替口座東京四一〇五八番



第 一 卷
第 一 册

豊林省山林園藝

明治二十五年八月八日發行
第百二十五號

(全册二十五卷)

總發行所東京四一〇番地
富澤武雄物二〇四番地

發行所 大日本農工會

東京市藤田區本郷三丁目二番五

印刷所 不二印刷

東京市京橋區本町二丁目

發行者 及 氏 謹啓

東京市藤田區本郷三丁目二番五

